

V.1. 教員の教育研究・社会貢献活動

(2016年11月1日～2018年3月31日)

(2) 言語社会専攻

【アジア I 講座】

〔中国語〕

青野 繁治 (AONO Shigeharu) 教授

http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~s_aono/

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉アジア言語文化表象論、アジア・アフリカ言語文化表象論

〈共通教育担当科目〉アジアの社会と文化を知る

〈学部教育担当科目〉中国語 3、中国語 15、中国語VIIa,b 中国語Xb、中国文学講義 a、中国文学特別演習 ab

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉中国現代小説論、

〈所属学会〉日本中国学会、日本現代中国学会、中国文芸研究会

〔その他の活動〕

〈管理運営〉言語文化研究科・外国語学部ネットワーク委員長、外国語学部ネットワーク管理者

〈学会活動〉言語社会学会 EXORIENTE 編集委員長、中国文芸研究会事務局員・ネットワーク管理担当、「野草」編集委員

〈社会貢献活動〉大阪大学生協理事、咲耶会幹事

古川 裕 (FURUKAWA Yutaka) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉広域言語実践論IAB、広域対照言語論特別研究 AB、アジア・アフリカ言語社会研究序説。

〈共通教育担当科目〉中国語 (中級)

〈学部教育担当科目〉中国語 1・2、中国語 XI、中国語学特別演習、中国語学講義、教科教育法 (中国語)。

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉現代中国語の認知言語学的研究、日本語話者に対する中国語教育に関する研究。

〈所属学会〉世界漢語教学学会、日本中国語学会、中国語教育学会、日本中国学会、国際中国語学学会、亜太地区国際漢語教学学会。

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・「“左 VP 右 VP”对举格式的語法化」(王峰との共著：第二著者)、『漢語學習』2016 年第 6 期、延邊大学 (中国)、2016 年 12 月。
- ・「詞法和句法之間的互動及其接口」、『杉村博文教授退休記念 中国語学論文集』白帝社、2017 年 3 月。
- ・「關於“再好的演員”一類詞組」、『楊凱榮教授還曆記念 中国語学論文集』朝日出版社、2017 年 7 月。
- ・「教学法與漢語教学」(劉元滿、吳勇毅、阮黃英、古川裕)、『漢語與漢語教学研究』第 8 期、東方書店、2017 年 7 月。
- ・「擬製名詞句“再好的演員”をめぐる日本語と中国語の対照研究」、『漢日語言対比研究論叢』第 8 編、華東理工大学 (中国上海)、2017 年 8 月。
- ・「動詞前“好”字的語法化途径-兼論“好 V”型形容詞的成立条件」、『語言学研究的多元視野：慶祝史有為教授八十華誕文集』、商務印書館國際有限公司、2017 年 8 月。
- ・「漢語“对举形式”的語法特点及其教学对策」、『中国語研究』第 19 号、2017 年 10 月。
- ・「基于日語母語者偏誤分析的在日漢語語法教学」(張恒悦との共著：第二著者)、『中国語教育』第 16 号、2018 年 3 月。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「日本国立大学日語予科教育：以大阪 (外国語) 大学為例」、全国来華予科教育專家論壇、北京語言大学予科学院、2016 年 10 月 26 日。
- ・「從在日漢語教学的角度看漢語的对举形式」、第 8 届垂太地区國際漢語教学学会年会大会報告、北京語言大学國際漢語教育学部、2016 年 10 月 29—30 日。
- ・「漢語的表述特点及其教学对策」、華東師範大学國際漢語教学研修基地、11 月 23 日。
- ・「從日語漢字的“音讀・訓讀”看漢語字詞的“單雙”形變」、第二届漢字文化圈華語教学專題研討会、國立清華大学 (台湾新竹)、2017 年 2 月 18 日。
- ・「從日語漢字的“訓讀”和“音讀”多音現象看漢語雙字詞的語体特徵」、漢語語体語法新進展円卓論壇、香港中文大学、2017 年 5 月 20—21 日。
- ・「基于日語母語者偏誤分析的在日漢語語法教学」(張恒悦との共同発表)、日本中国語教育学会第 15 回全国大会、大会報告、關西大学、2017 年 6 月 3 日。
- ・「現代漢語对举形式的表述特点及其教学对策」、南京大学建校 115 周年人文社科高端講座、2017 年 6 月 5 日。
- ・「從補語的特点重新看漢語語法」、上海外国語大学國際文化交流学院、2017 年 6 月 15 日。
- ・「日本国立大学対来日留学生予科教学的課程設計」、第三届國際漢語教学研討会、香港教育大学、2017 年 6 月 24 日。
- ・「從語言文化的角度看漢語的表述特点」、「語言伝播與文明対話」國際學術研討会、Oxford University (England)、2017 年 6 月 28—29 日。
- ・「從外語視角看漢語語法」、第 2 届垂太漢語教学学会、Rydgcs World Square (Sydney,

Australia) 、2017年7月8-9日。

- ・「從日語漢字的多音現象看漢語雙字詞的語體特徵及其教學對策」、桜美林大學孔子學院中國語教員研修講演、2017年7月29日。
- ・「漢語的表述特點及在日漢語教學」、第8回東日本中國語講師セミナー講演、工學院大學孔子學院、2017年8月7日。
- ・「從日語漢字的多音現象看漢語雙字詞轉換」、亞太地區國際漢語教學學會第9屆國際研討會、延世大學（韓國ソウル）、2017年10月21-22日。
- ・「在日漢語教學的現狀及其課題」、漢語國際教育發展論壇、復旦大學（中國上海）、2017年11月11日。
- ・「在日漢語教學概況」「漢語對舉形式的語法特點及其教學對策」「從補語系統看漢語教學語法」「從日語漢字的多音現象談漢語的語體特徵」、中山大學國際漢語系列講座（中國廣州）、2017年12月7-8日。

[その他の活動]

〈管理運営〉グローバルイニシアティブ・センター海外拠点部門地域連絡会（東アジア拠点）

〈学会活動〉世界漢語教學學會副會長、亞太地區國際漢語教學學會理事、日本中國語學會理事、中國語教育學會代表理事、桜美林大學孔子學院理事、上海華文教育研究中心專家、大連理工大學海天學者、北京語言大學對外漢語研究中心客座教授。

〈社會貢獻活動〉映画字幕翻譯講座コーディネイター、同濟大學（中國上海）・上海外國語大學（中國上海）・大連理工大學（中國大連）・國立交通大學（台灣新竹）との學術交流コンタクトパーソン、關西地區中國留學經驗者同窓會會長、全日本中國留學經驗者同窓會副會

今泉 秀人 (IMAIZUMI, Hideto) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化表象論II

〈共通教育担当科目〉中國語中級

〈学部教育担当科目〉中國語3、中國語14、中國語VIII、中國文學研究、中國文學特別演習II、中國文學講義I、中國研究概論

[研究活動]

〈研究テーマ〉中國現代文學

〈所属学会〉日本中國學會、日本現代中國學會、中國文芸研究會

[研究業績]

〈共著〉

- ・「戦争時期下沈从文作品中的“梦”与“现实”——以《梦与现实》（1940）、《摘星录》（1941）、《看虹录》（1943）为中心」, 陈思和主编『全球视野下的沈从文』（上海交通大学出版社、185-194頁、2017年5月）

〈口頭発表〉

- ・「満洲から北平へ——鍾理和の中国大陸における事跡について」中国文芸研究会 11 月例会（関西学院大学梅田キャンパス、2017 年 11 月 26 日）
- ・「吳念真 『這些人，那些事』 自伝・回想録を読む会 第 29 回例会（関西学院大学梅田キャンパス、2018 年 1 月 28 日）

[その他の活動]

〈管理運営〉 大学院入試委員会

林 初梅 (LIN Chumei) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化資源論II

〈共通教育担当科目〉 ことばの世界

〈学部教育担当科目〉 中国語学演習I、中国語IV、中国語 11B、中国語XII、中国語 5B

[研究活動]

- 〈研究テーマ〉 1. 戦後台湾における「日本」記憶の形成
2. 台湾の新住民言語教育

〈所属学会〉 日本台湾学会、東アジア近代史学会、多言語社会研究会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・林初梅「台湾小学の新住民語文教育及師資培育」『外国語教育のフロンティア』創刊号、大阪大学言語文化研究科、2018 年 3 月、pp.1-6。
- ・林初梅「国民党政府による日本的要素の容認と排除—戦後初期台湾における学校接收過程の一考察」『言語文化研究』44 号、2018 年 3 月、pp.149-168。

〈翻訳・翻訳書〉

- ・林初梅監訳（所澤潤・林初梅編著『台湾のなかの日本記憶』）『戦後台湾的日本記憶—重返再現戦後の時空』台北：允晨文化，2017 年 3 月。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・林初梅「日本的台湾研究視角：以日治時期建築保存活動之研究為例」2017 年 12 月 14 日、於台湾師範大学文学院
- ・林初梅「探尋「日本」記憶-從日本學者的觀點看台灣的歷史建築保存活動」2017 年 8 月 4 日、「重建歷史現場：夏季思想沙龍」於台北紫藤廬
- ・林初梅「戦後時空重現南國的〈日本〉—建構台灣人集體記憶的推手」2017 年 3 月，於台湾大学台湾文学研究所
- ・林初梅「戦後初期台湾における国民党の学校接收—日本的要素の排除と受容」国際シンポジウム「アジアを捉えなおす—歴史、文化、秩序—」（九州大学大学院地球社会統合科学

府主催)、2017年01月

〈研究助成〉

- ・台湾教育部台湾研究講座助成事業「台湾言語文化課程発展プロジェクト」2015年4月～2018年3月、研究代表者
- ・科学研究費助成事業 基盤研究(C) 挑戦的研究(萌芽)(研究代表者:電気通信大学 志賀幹郎)「未来をつくる研究」としての外国人児童生徒教育研究-台湾の「新南向政策」分析」2017年～2019年(研究課題番号:17K18616)、研究分担者

[その他の活動]

〈学会活動〉日本台湾学会選挙委員会委員長、日本台湾学会理事

鈴木 慎吾 (SUZUKI Shingo) 講師

<http://www1.lang.osaka-u.ac.jp/user/suzukish/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語構造論 IA・B

〈共通教育担当科目〉広東語

〈学部教育担当科目〉中国語 16 (広東語初級)、中国語 19 (広東語初級)、中国語 Va・b (広東語中級)、中国語学演習 IIIa・b、中国語学特別演習 IIIa・b

[研究活動]

〈研究テーマ〉中国語学(音韻・方言)

〈所属学会〉日本中国語学会、日本中国学会、漢字文献情報処理研究会、中国語教育学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・安岡孝一、ウィッテルンクリスティアン、守岡知彦、池田 巧、山崎直樹、二階堂善弘、鈴木慎吾、師 茂樹「古典中国語(漢文)の形態素解析とその応用」情報処理学会論文誌 59 (2), 2018

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・『切韻』の韻序に関する試論 —遠藤説、平山説を基礎として—(平成29年8月25日, 漢デジ2017, 北海道大学)
- ・「中古音韻尾の円唇・非円唇対立について」(平成29年11月12日, 日本中国語学会第67回全国大会, 中央大学)

〈研究助成〉

- ・『切韻』系韻書総合データベースの構築(科学研究費補助金基盤研究(C)平成28-30年度;研究代表者)
- ・平安時代漢字字書総合データベースによる研究基盤の確立(科学研究費補助金基盤研究(B)平成28-31年度;研究分担者)

[その他の活動]

〈管理運営〉未来共生イノベーター博士課程プログラムプログラム担当者（2012年～）；言語社会専攻ネットワーク管理委員（2012年4月～）、コンテンツ管理委員（2012年4月～）

〈学会活動〉日本中国語学会ウェブリソース委員長（2012年4月～）、評議員（2016年4月～）

中田 聡美 (NAKATA Satomi) 助教

[教育活動]

〈研究科担当科目〉広域対照言語論 IA、広域対照言語論 IB

〈共通教育担当科目〉中国語 1(B)、中国語 2(B)

〈学部教育担当科目〉中国語 17、東アジア言語文化概論、中国語学講義 Ia、中国語学特別演習 IIa、中国語学特別演習 IIb

[研究活動]

〈研究テーマ〉現代中国語におけるモダリティ研究

〈所属学会〉日本中国語学会、中国語教育学会、International Association of Chinese Linguistics(国際中国語学学会)

[研究業績]

〈論文〉

- ・〈存在〉と“場所詞+是/有+NP”，『杉村博文教授退休記念中国語学論文集』, pp279～298, 2017年3月10日。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・“有+数量结构”中“有”的语义功能及其语法化，第九届汉语语法化问题国际学术讨论会，(中国)安徽大学，2017年10月21日。
- ・“別”、“不”における視点と間主観性，日本中国語学会第67回全国大会，中央大学，2017年11月12日。

[その他の活動]

〈学会活動〉

- ・中国語教育学会(事務局 幹事)，2016年度・2017年度

張 恒悦 (ZHANG Hengyue) 特任准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉広域言語実践論 AB

〈学部教育担当科目〉中国語 5(A)、中国語 Ia(A)、中国語 18、中国語 12(AB)、中国語Ib(A) 中国語 IIab(B)。

[研究活動]

〈研究テーマ〉現代中国語文法、日本語母語話者の中国語誤用分析

〈所属学会〉 日本中国語学会、中国語教育学会

[研究業績]

〈論文〉

〈単著〉 日中両言語の比較構文について——誤用例“*我比米饭喜欢拉面”を手掛かりに、
『中国語教育』第 16 号、pp87-105、2018 年 3 月。

〈共著〉 基于日语母语者偏误分析的在日汉语语法教学、『中国語教育』第 16 号、pp21-31、
2018 年 3 月。

〈学会報告〉

基于日语母语者偏误分析的在日汉语语法教学、中国語教育学会第 15 回全国大会、2017 年
6 月 3 日、関西大学千里山キャンパス。

〈口頭発表〉

日中両言語の比較構文について——誤用例“*我比米饭喜欢拉面”を手掛かりに、中国語教育
学会第 15 回全国大会、2017 年 6 月 4 日、関西大学千里山キャンパス／2017 年現代中
国語研究会、2017 年 9 月 30 日、明海大学浦安キャンパス。

[その他の活動]

〈管理運営〉

2017 年 10 月 28 日～11 月 4 日、二年生 8 人を引率して紹興越秀外国語学院で海外研修を
行いました。

劉頌浩 LIU SONGHAO, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes>

博士後期課程，広域対照言語論特別研究 A，春～夏学期

博士後期課程，広域対照言語論特別研究 B，秋～冬学期

博士前期課程，中国語特別演習 A，春～夏学期

博士前期課程，中国語特別演習 B，秋～冬学期

<General Education classes>

中国語 4(B) (豊中開講)，通年

中国語 4(A) (豊中開講)，通年

中国語 13(A) 通年

中国語 13(B) 通年

中国語 Ia(B) 春～夏学期

中国語 Ib(B) 秋～冬学期

中国語 IIa(A) 春～夏学期

中国語 IIb(A) 秋～冬学期

[Academic activities]

<Research Fields and interests>

Teaching Chinese as a Second Language, Second Language Acquisition, Second Language Teacher Education

<Academic society memberships>

Lifelong member of International Society for Chinese Language Teaching

[Research achievements]

<Papers>

1. LIU, Songhao. 2017. The present situation and future development of exercise studies on TCSL (對外漢語教學練習研究的現狀及發展). *Guoji Hanyu Jiaoyu (International Chinese Language Education)*, 4: 88-99. (In Chinese)
2. LIU, Songhao. 2017. The role of non-intention Ba-construction in TCSL (致使把字句在對外漢語教學中的地位問題). *Guoji Hanyu Jiaoxue Yanjiu (Journal of International Chinese Teaching)*, 2: 58-70. (In Chinese)

<Translations>

1. B. Kumaravadivelu, Translated by LIU, Songhao. & KUANG, Liuxing. 2017. Classroom discourse analysis (課堂語篇分析); Learning from the classroom: Teacher research (從課堂中學習：教師研究). *Guoji Hanyu Jiaoxue Yanjiu (Journal of International Chinese Teaching)*, 4: 34-46. (In Chinese)
2. B. Kumaravadivelu, Translated by LIU, Songhao. & ZHANG, Yue. 2017. Language teacher education in a global society (全球時代的語言教師教育); Teacher beliefs, values and identities (教師信念、價值觀和身份認同). *Guoji Hanyu Jiaoxue Yanjiu (Journal of International Chinese Teaching)*, 3: 31-51. (In Chinese)
3. B. Kumaravadivelu, Translated by LIU, Songhao. & DING, Danni. 2017. Cultural globalization, identity formation, and language teaching (文化全球化、個體身份與語言認同); The teaching of culture in the language classroom (二語課堂中的文化教學). *Guoji Hanyu Jiaoxue Yanjiu (Journal of International Chinese Teaching)*, 2: 42-57. (In Chinese)
4. B. Kumaravadivelu, Translated by LIU Songhao. & LIU, Jiang. 2017. A historical development of language teaching methods (語言教學法的歷史發展); Beyond methods and towards postmethod pedagogy (超越方法以及後方法教學). *Guoji Hanyu Jiaoxue Yanjiu (Journal of International Chinese Teaching)*, 1: 45-63. (In Chinese)

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

1. Ba-construction and the Teaching of Chinese Grammar (“把”字句和漢語語法教學), Confucius Institute, J. F. Oberlin University (日本櫻美林大學), Japan, 30 July 2017.

[朝鮮語]

岸田 文隆 (KISHIDA Fumitaka) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉「アジア・アフリカ言語構造論特別研究 II」、「アジア言語構造論 II」、「アジア言語文化表象論 III」

〈共通教育担当科目〉「朝鮮語中級」（1セメスターのみ）

〈学部教育担当科目〉「朝鮮語2」、「朝鮮語13」、「朝鮮語IV」、「朝鮮語学講義」、「朝鮮語学演習II」、「教科教育法（朝鮮語）」

[研究活動]

〈研究テーマ〉江戸・明治期の日本の朝鮮語学書についての研究

〈所属学会〉朝鮮学会、日本言語学会、満族史研究会、朝鮮語研究会、韓国国語史学会、国際訳学書学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・(2017.03.) 「倭学訳官崔[王罔] (伯玉) のハングル書簡よりみた易地行聘交渉」『韓国朝鮮文化研究』16, 東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室

〈研究助成〉

- ・平成28年度科学研究費補助金基盤研究(B)、課題番号:24320078、研究課題名:対馬宗家文書朝鮮語ハングル書簡類の研究
- ・平成29年度科学研究費補助金基盤研究(C)、課題番号:17K02725、研究課題名:江戸・明治期日朝往復ハングル書簡類データベースの構築

[その他の活動]

〈管理運営〉FD研修委員会委員、CHEGA入試委員会委員、言語文化研究科言社・日日専攻紀要編集委員長、外国語学部副学部長、外国語学部入試委員

〈学会活動〉朝鮮学会幹事、満族史研究会幹事、朝鮮語研究会幹事、韓国国語史学会編集委員、国際訳学書学会副会長

〈社会貢献活動〉東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研修専門委員会委員

小西 敏夫(KONISHI Toshio) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア・アフリカ言語構造論特別研究、アジア言語構造論

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習(朝鮮語)

〈学部教育担当科目〉朝鮮語、朝鮮言語文化概論、朝鮮語学演習、朝鮮文学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉朝鮮語学、中期朝鮮語

〈所属学会〉朝鮮学会、日本言語学会

酒井裕美 (SAKAI Hiromi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語社会動態論I、アジア・アフリカ言語社会論特別研究

〈共通教育担当科目〉

〈学部教育担当科目〉朝鮮文化演習I、朝鮮文化演習II、朝鮮文化演習VI、朝鮮語1 2、朝鮮文化講義、朝鮮社会文化概論

[研究活動]

〈研究テーマ〉朝鮮近代外交史

〈所属学会〉朝鮮史研究会、朝鮮学会、東アジア近代史学会

[モンゴル語]

塩谷 茂樹 (SHIOTANI Shigeki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉モンゴル語

〈共通教育担当科目〉ユーラシアの文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉モンゴル語、アルタイ諸語

[研究活動]

〈研究テーマ〉モンゴル言語学（形態論、語彙論）、モンゴル口承文芸（ことわざ、民話、慣用句）

〈所属学会〉日本モンゴル学会、国際モンゴル学会

今岡良子 (IMAOKA Ryoko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語社会構造論 I A/B

〈共通教育担当科目〉現代社会を読み解く、平和の探求、特別外国語演習（モンゴル語）II

〈学部教育担当科目〉モンゴル語2、モンゴル語15、モンゴル社会文化概論、モンゴル社会講義 a/b、モンゴル社会演習 IIa/b、モンゴルフィールドワーク演習 a/b

[研究活動]

〈研究テーマ〉遊牧と生物多様性

〈所属学会〉畜産システム研究会、日本環境学会、国際モンゴル学者会議、モンゴル研究会

中嶋 善輝 (NAKASHIMA Yoshiteru) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語構造論 V A, B

〈共通教育担当科目〉モンゴル語初級 I

〈学部教育担当科目〉モンゴル語3、モンゴル語学演習 I, II a, b, モンゴル語13, カザフ語

a, b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 モンゴル語とチュルク語の言語接触, アルタイ言語学

〈所属学会〉 日本モンゴル学会員, 大阪言語社会学会, 国際モンゴル学会

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本モンゴル学会理事, 国際モンゴル学会書記局メンバー

【アジアⅡ講座】

〔インドネシア語〕

菅原 由美 (SUGAHARA Yumi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語社会動態論、アジア地域社会論

〈共通教育担当科目〉 基礎セミナー「インドネシアの歴史と社会」

〈学部教育担当科目〉 インドネシア語、インドネシア文化講義 I、インドネシア文化演習 I,II、東南アジア社会文化演習 II (K)、言語文化比較交流論 (H-I)

その他 海外研修 (インドネシア)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 インドネシア近代史、インドネシア・イスラーム史

〈所属学会〉 東南アジア学会、史学会、日本インドネシア学会、日本イスラム協会、Masyarakat PERNASKAHAN Nusantara/ Manassa (インドネシア写本学会、インドネシア)、Koninklijk Instituut voor Taal-, Land- en Volkenkunde (王立言語地理文化研究所、オランダ)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- 菅原由美・Yosephin Apriastuti Rahayu. 2017. 『平成 29 年度言語研修ジャワ語初級テキスト ジャワ語の基礎』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- Willem van der Molen & Yumi Sugahara eds. 2018. *Transformation of religions as reflected in Javanese texts*. Javanese studies series 5. Tokyo: ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies.

〈論文〉

- 菅原由美. 2017. 「インドネシア国史とイスラーム」『Ex oriente』24: 1-26.
- 菅原由美. 2018. 「出版とオランダ領東インドのイスラーム化ーインドネシア近代史叙述とイスラーム・アイデンティティ」小泉順子編『歴史の生成』京都大学出版会. 223-252.
- Yumi Sugahara. 2018. "Islam and the National History of Indonesia" *Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia (Vol.2) : Perspectives from Indonesia, Malaysia, the Philippines, Thailand, and Cambodia*. Edited by Ikuya Tokoro. Tokyo: ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

口頭発表

- ・「19世紀ジャワ語出版キターブとガザーリー —Soleh Darat 著 Munjiyat puthikan saking lhya Ulum al-Din を中心に」上智大学アジア文化研究所アジア研究セミナー「東南アジアのキターブ比較研究」2017.2.23, 上智大学

〈研究助成〉

- ・ 科研基盤研究 (B) 海外学術調査「ジャワ語文献にみるジャワのイスラーム化再考」(平成28~31年度) 研究代表者
- ・ 科研基盤研究 (C) キターブの地域間比較と時代的変容からみる東南アジア・ムスリムの思想・社会の動態」研究代表 川島緑 (平成29-31年度) 研究分担者
- ・ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 共同利用共同研究「ジャワ語テキストにみるジャワの宗教変容 (2) ジャワのイスラーム化再考」(2016年度~2018年度) 研究代表

[その他の活動]

〈管理運営〉

- ・ 図書委員会委員
- ・ 適塾記念センター・オランダ学研究部門兼任教員
- ・ Javanese documents online (JVDO) URL: <https://jvdo.aa-ken.jp/>

〈学会活動〉

- ・ 語学研修 平成29年度ジャワ語研修講師 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所語学研修
- ・ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所出版 Javanese Studies Series 編集委員
- ・ インドネシア写本学会誌 *Manuskripta: Jurnal Manassa* 編集顧問
- ・ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 共同利用共同研究「東南アジアのイスラームと文化多様性に関する学際的研究 (第二期)」(2014年度~2016年度) 共同研究員
- ・ 上智大学アジア文化研究所共同研究員
- ・ 天理大学南方文化研究会『南方文化』編集委員
- ・ 日本インドネシア学会監査担当
- ・ 日本東南アジア学会総務委員
- ・ 箕面アジア勉強会/大阪大学地域研究フォーラム (OUFAS) 世話人

〈社会貢献活動〉

- ・ 国際交流基金アジアセンター、日本語パートナーズ派遣研修用出張講義 (2017年3月16日、2017年8月15日、2018年2月21日)
- ・ 法務省法務総合研究所、「政治、社会、文化等の情勢及び言語に係る研究会」講師
- ・ 大阪府高校生相互派遣交流事業インドネシア・東ジャワ州派遣コース講師(2017年7月8日)

原 真由子 (HARA Mayuko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語構造論 IX、アジア・アフリカ言語文化研究序説（リレー講義）

〈共通教育担当科目〉特別外国語（インドネシア語初級）

〈学部教育担当科目〉インドネシア語4、インドネシア語13、インドネシア語III、インドネシア語学講義I、東南アジア社会文化演習II、インドネシア語学演習I

[研究活動]

〈研究テーマ〉社会言語学（インドネシア・バリ）、インドネシア語教育

〈所属学会〉日本言語学会、社会言語科学会、日本音声学会、日本インドネシア学会、外国語教育学会、Masyarakat Linguistik Indonesia

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・降幡正志、原真由子『ニューエクスプレス インドネシア語』白水社、2017年10月

〈論文〉

・原真由子、森山幹弘、降幡正志「インドネシア語基本文法の記述：教材作成のための共同研究からの報告」『インドネシア 言語と文化』23号、pp. 7-30、2017年6月

・原真由子「バリ語とインドネシア語コード混在会話におけるバリ語 nggih, kenten, nika の機能」『南方文化』43輯、pp. 53-69、2017年6月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・森山幹弘、原真由子、降幡正志「インドネシア語基本文法の記述：教材作成のための共同研究からの報告」日本インドネシア学会第47回研究大会、愛知県立大学サテライトキャンパス、2016年11月19日

・Hara Mayuko, “Masalah materi pengajaran bahasa Indonesia di Universitas di Jepang dan tindakan lanjutannya,” Simposium Internasional Pengajaran Bahasa Indonesia bagi Penutur Asing (BIPA) (23-24 Agustus 2018, Hotel Inna Garuda, Yogyakarta, Indonesia)

・Hara Mayuko, ““Honorifics” in the usage of personal pronouns and terms of address in the Bali Aga dialect,” The 1st International Conference on Local Languages--Empowerment and Preservation of Local Languages (23-24 February 2018, Udayana University, Indonesia), *Proceedings The 1st International Seminar on Local Languages: Empowerment and Preservation of Local Languages*, pp. 1-10

〈研究助成〉

・科学研究費補助金・基盤研究（C）

〈調査活動〉

・インドネシア・バリ州において社会言語学調査（2017年1月25～2月4日）

・インドネシア・バリ州において社会言語学調査（2017年9月4日～17日）

[その他の活動]

〈管理運営〉 入試委員会、研究推進企画委員会、CIS 世話人
〈学会活動〉 日本インドネシア学会事務局

〔フィリピン語〕

大上 正直 (OUE Masanao) 教授

<http://www1.lang.osaka-u.ac.jp/user/ouue/oue.html>

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 アジア言語構造論 XI (フィリピン語)、アジア・アフリカ言語社会研究序説、アジア・アフリカ言語社会論特別研究 B

〈学部教育担当科目〉 フィリピン語 1 (1年)、フィリピン語 1 1 (2年)、フィリピン言語演習 (2年)、フィリピン語 I (3・4年)、フィリピン言語講義 I (3・4年)、フィリピン言語特別演習 I (3年)、フィリピン言語特別演習 II (4年)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 フィリピン語辞書編纂のためのコーパス構築と携帯端末用アプリの開発研究 (科学研究費補助金：挑戦的萌芽研究)、フィリピン語辞書編纂研究、フィリピン語文法研究

〈所属学会〉 日本言語学会、大阪大学言語社会学会、日本インドネシア学会

〔その他の活動〕

〈管理運営〉 全学教育推進機構教育言語部会、言語社会専攻フィリピン語部会主任

〈社会貢献活動〉 GSEP (世界電力首脳有志の会議)奨学金プログラム学識者選考委員会日本代表委員

宮脇 聡史 (MIYAWAKI Satoshi) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 アジア・アフリカ言語社会論特別研究、アジア言語社会構造論、

〈共通教育担当科目〉 国際教養科目

〈学部教育担当科目〉 フィリピン語 (1年、2年、3・4年の各科目)、東南アジア社会文化演習、フィリピン社会演習

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 フィリピンのキリスト教の社会変容の中での動向と言説分析、教会と性的少数者、性と生殖に関する動向と言説分析

〈所属学会〉 東南アジア学会、アジア政経学会、「宗教と社会」学会、日本比較政治学会

〔研究業績〕

〈単著・編著書・共著〉

・『フィリピンを知るための 64 章』 (分担)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「フィリピンにおけるカトリック教会にとっての性をめぐる価値観の「外来性」と政治」
（アジア政経学会春季大会 自由応募分科会 1「アジアにおける性的マイノリティの政治：家族・宗教・国家」2017年6月24日（一橋大学））
- ・「最新！東南アジア・フィリピンの魅力と投資環境」（インターナショナルVIPクラブ＜大阪＞定例会における講演、2017年05月16日）
〈研究助成〉
- ・科学研究補助金（基盤B（分担））東南アジアにおけるLGBTの比較政治研究
〈調査活動〉
- ・フィリピン・マニラにおける教会の歴史と動向に関する文献調査（2018年3月9日～19日）
[その他の活動]
〈管理運営〉 講座代表者（アジアII講座）、総務委員（副委員長）、CIS世話人、なんでも相談室員
〈学会活動〉 東南アジア学会総務委員
〈社会貢献活動〉 認定NPO法人アイキャン理事

[タイ語]

宮本 マラシー (MIYAMOTO Marasri) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア・アフリカ文化表象論特別研究 A, アジア言語文化表象論IV A

〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習（タイ語）I

〈学部教育担当科目〉 タイ語 5, タイ語 13, タイ語IV a,b, タイ語学演習 a,b, 東南アジア言語講義 a,b, 教科教育法（タイ語） a,b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 五感の言語表現

〈所属学会〉 日本言語学会, 社会言語科学会, 日本認知言語学会, 大阪大学言語社会学会

[その他の活動]

〈社会貢献活動〉 朝日カルチャーセンター タイ語会話の授業を担当。

村上 忠良 (MURAKAMI Tadayoshi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語社会構造論、アジア地域社会論、アジア・アフリカ言語社会研究序説

〈学部教育担当科目〉 タイ語 3, タイ語 11, タイ語II, タイ文化演習、東南アジア社会文化演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 宗教実践における声と文字—仏教書化からみたシヤンの在家朗誦、タイにおける宗教的マイノリティ

〈所属学会〉 日本文化人類学会、日本タイ学会、東南アジア学会、大阪大学言語社会学会
[その他の活動]

〈学会活動〉 日本タイ学会理事、大阪大学言語社会学会理事

Buranapatana Maliwan, Specially Appointed Associate Professor

Teaching activities:

Graduate School classes : Special Seminar in Thai A (Thai Language and Culture), Special Seminar in Thai B (Thai short stories and society), Structure of Asian Languages XII A (Language Variations), Structure of Asian Languages XII B (Language Change).

Foreign language classes: Thai 1 (Listening I), Thai 2 (Conversation in Daily Life1), Thai 15 (Listening II), Thai 12 (Conversation in Daily Life II), Thai I a (Academic Speaking), Thai I b (Thai Speech), A Lecture on Thai Literature a (Thai Folktales), A Lecture on Thai Literature b (Thai Short Story : Interpretative Reading).

Academic activities:

Research Fields and interests: Teaching Thai as a foreign language, Thai literature, Foreign language anxiety, Task-based teaching and learning

Research achievements:

Papers: "Task-based language teaching approach in the Teaching of Thai Language Speaking skills to Japanese Students" **Frontier of Foreign Language Education**, Graduate School of Language and Culture, Osaka University, 2018

Other activities:

Research Committee, The assessment of research instruments, PhD Thesis "Development of a Thai-language business - oriented reading curriculum using standard-based education approach for foreigners", Ms. Phornrat Tiranant, Department of Curriculum and Instruction, Faculty of Education, Chulalongkorn University, Bangkok, THAILAND. July, 2017.

[ベトナム語]

清水 政明 (SHIMIZU Masaaki) 教授

<http://hoithanglong.com/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化資源論VII、アジア・アフリカ言語構造論特別研究

〈共通教育担当科目〉 アジア言語文化研究入門

〈学部教育担当科目〉 教科教育法(ベトナム語)、ベトナム語 2、ベトナム語 13、ベトナム語 V(A)、ベトナム言語演習、東南アジア社会文化演習 II(D)、言語文化比較交流論(H)、情報

活用基礎(外)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ベトナム語音韻史、字喃研究、ベトナム語教育、ベトナム語統語論

〈所属学会〉 東南アジア学会、日本中国語学会、日本言語学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・ 清水政明 (2017) 「ベトナム」『日本語ライブラリー 漢字』, 沖森卓也・笹原宏之編著, 朝倉書店, pp.163-169.
- ・ Shimizu Masaaki (2017) Chinese and Vietnamese, *Encyclopedia of Chinese Language and Linguistics* (5 vol.), Rint Sybesma et al (ed.), Brill Academic Pub. pp. 389-392.

〈論文〉

- ・ 清水政明, ゲン・ティ・ゴック・トー (2018) 「レベル別ベトナム語教材作成支援システムの構築」『外国語教育のフロンティア』 Vol.1, pp.55-62.
- ・ ゲン・ティ・オアイン, 清水政明 (2018) 「ベトナムの漢字研究—漢文訓読の問題など—」『日本語学』 第 37 卷 2 号, pp.40-53.
- ・ 清水政明 (2017) 「ベトナムの社会とことば」『ICD NEWS』 第 71 号, pp.7-26
- ・ 清水政明 (2017) 「ベトナム語の動詞連続について—「付帯」表現を中心に—」『東南アジア大陸部諸言語の動詞連続』 東南アジア諸言語研究会編, pp.19-35, 慶応義塾大学言語文化研究所

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 清水政明 (2018) 「ベトナム語教育と CIS プログラム」『生産と技術』 Vol.70, No.2, pp.109-111.
- ・ 清水政明, 近藤美佳 (2017) 「散在校における継承ベトナム語学習支援—継承ベトナム語学習カリキュラム考案に向けて—」 「子ども科研」 (代表: 大阪大学・眞嶋潤子) 研究成果報告会資料集, 31-37.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ 清水政明 (2018) 「日本における漢喃研究—回顧と展望—」 日本漢字学会設立総会記念シンポジウム, 2018 年 3 月 29 日, 京都大学百周年時計台記念館
- ・ 清水政明 (2018) 「チュノムの基本構造に関する一考察」 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究「アジア文字研究基盤の構築 1: 文字学に関する用語・概念の研究」 2017 年度第 3 回研究会, 2018 年 2 月 18 日, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- ・ 清水政明, 小島浩之 (2018) 「東南アジア地域文献の資料論的研究: ハンノム文献を中心として」 京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究「東南アジア研究の国際共同研究拠点」 平成 29 年度年次成果報告会, 2018 年 2 月 16 日, 京都大学稲盛財団記念館
- ・ 阿辻哲次, 小倉紀蔵, 清水政明, 前田安正 (2017) 「アジアの漢字 NOW—戦後のアジア諸

国における文字政策を振りかえる」漢字ミュージアムシンポジウム, 2017年11月12日, 漢検漢字博物館・図書館

- ・清水政明 (2017)「タイ王国ベトナム寺院旧蔵資料の意義—漢文・字喃經典『佛説天地八陽經』を例に—」京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究「東南アジア研究の国際共同研究拠点」平成29年度第1回研究会, 2017年9月30日, 京都大学稲盛財団記念館
 - ・清水政明 (2017)「15世紀漢文・字喃文対訳資料に見える数詞句」第5回『言語の類型的特徴をとらえる対照研究会』2017年8月12日, 大阪府立大学 I-site なんば
 - ・Shimizu Masaaki (2017) *Tone and Register in Austroasiatic*, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究「アジア地理言語学」第1回研究会, 2017年8月5~6日, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
 - ・清水政明 (2017)「言語を通じた日越交流」法務省法務総合研究所国際協力部講演, 2017年7月13日, 大阪中之島合同庁舎内法務省法務総合研究所国際協力部
 - ・清水政明 (2017)「ベトナムの社会と歴史—「ムラ社会」ベトナムの変遷—」法務省法務総合研究所国際協力部講演, 2017年6月22日, 大阪中之島合同庁舎内法務省法務総合研究所国際協力部
 - ・Shimizu Masaaki & Kondo Mika (2017) *The distribution of diphthongs in Vietnamese dialects, The Twenty Seventh Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society, 11-13 May 2017, Padang, West Sumatra, Indonesia.*
 - ・清水政明 (2017)「ベトナム語 —đi と đén—」慶應義塾大学言語文化研究所公開シンポジウム『移動動詞表現の対照—東南アジア諸言語の「行く・来る」を中心に—』2017年3月25日, 慶應義塾大学言語文化研究所
 - ・清水政明 (2017)「ベトナムの文字文化」法務省法務総合研究所国際協力部講演, 2017年2月23日, 大阪中之島合同庁舎内法務省法務総合研究所国際協力部
 - ・清水政明 (2016)「ベトナムの漢字文化」法務省法務総合研究所国際協力部講演, 2016年12月15日, 大阪中之島合同庁舎内法務省法務総合研究所国際協力部
 - ・Shimizu Masaaki (2016) *Iron: Austroasiatic*, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究「アジア地理言語学」第3回研究会, 2016年11月19~20日, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 〈研究助成〉
- ・科研費基盤研究(C)「ウェブを利用したベトナム語習得度試験システム開発のための基礎的研究」(代表: 清水政明)
 - ・科研費基盤研究(B)「ベトナム東北部諸言語に見られる借用漢語音の研究」(代表: 東京大学・吉川雅之) 分担者
 - ・京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究「東南アジア研究の国際共同研究拠点」研究課題「東南アジア地域文献の資料論的研究: ハンノム文献を中心として」代

表

〈調査活動〉

- ・ベトナム社会主義共和国バクカン省にてタイ—語調査（2017年8月）

[その他の活動]

〈学会活動〉 東南アジア学会理事、Vice President of International Association of Teaching Vietnamese

〈社会貢献活動〉 一般社団法人ベトナムリスト・クラブ語学講師

ファン・ティ・ミィ・ロアン (PHAN Thi My Loan) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語構造論 XIII A、 アジア・アフリカ言語構造論特別研究A

〈共通教育担当科目〉

[研究活動]

〈研究テーマ〉 日本語とベトナム語の両言語で使われる漢語熟語の異同の考察

〈所属学会〉 東南アジア学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・デイリー日本語・ベトナム語・英語辞典, [監修] 富田健次/[ベトナム語校閲]Phan Thi My Loan, 三省堂, I S B N978-4-385-12287-8, 2018年06月(第1刷発行)

- ・『Chu Quoc ngu: su hinh thanh, phat trien va dong gop vao van hoa Viet Nam』(正書法: 形成、発展及びベトナム文化への貢献)、Huynh Thi Hong Hanh, Nguyen Thi Thu Trang (Chu bien)、ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学、I S B N978-604-73-4663-9、2017年07月(共著)

- ・『ベトナム人を対象とした新しい漢字・漢語学習指導の提案—上』、Phan Thi My Loan、道上史絵、富田健次、大阪大学大学院言語文化研究科、2017年03月(共著)

〈論文〉

- ・味覚語彙とその感覚表現への転用に見るベトナム語と日本語の違い、『言語文化研究科』(44) pp.127-147, 2018年03月(単著)

- ・現代ベトナム語における動詞‘ăn’(「食べる」)の本質、『言語文化研究科』(43) pp.135-156, 2017年03月(単著)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・『ベトナム人を対象とした新しい漢字・漢語学習指導法の紹介』(Atlantic Group 所属の日本語講座於)、2017年09月(講演)

- ・『ベトナム人日本語学習者を対象とした漢字漢語学習指導法・・・非漢字圏の学習者同様に扱ってよいのか?』(ベトナム語学会於)、2016年12月(講演)

〈研究助成〉

- ・研究活動スタート支援（2013～2014）「ベトナム人を対象とした新しい漢字・漢語学習指導法の提案」（代表：Phan Thi My Loan）

[その他の活動]

〈管理運営〉国際交流委員会委員

Nguyen Thi Ngoc Tho, 特任講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化表象論 V A・B、ベトナム語特別演習 A・B

〈学部教育担当科目〉ベトナム語 3、ベトナム文学講義 a b、ベトナム語 III a b、ベトナム語 V a (A) b (B)、ベトナム語 Ia b、ベトナム語 1 5

[研究活動]

〈研究テーマ〉ベトナム語教育

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

秋葉 亜子著「文法からマスター！ 初めてベトナム語」（ナツメ社）ベトナム語監修

〈研究助成〉

ベトナム語能力試験の立ち上げプロジェクト（研究代表者：清水政明）参画

[ビルマ語]

池田 一人 (IKEDA Kazuto) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化表象論 VIA・B、アジア・アフリカ文化表象論特別研究 A・B、アジア地域社会論 A・B、歴史学方法論講義 A・B

〈共通教育担当科目〉アジアの文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉ビルマ語 5、ビルマ語 15、ビルマ文化演習 II a・b、ビルマ社会演習 I a・b、東南アジア社会概論 a・b、言語文化比較交流論 A・B

[研究活動]

〈研究テーマ〉ビルマ史、19世紀ビルマの民族形成史、カレン民族問題をめぐる史観研究

〈所属学会〉東南アジア学会、Association for Asian Studies、史学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「ミャンマーにおけるカレン民族問題の起源とタキン史観に関する覚書き」Ex Oriente 第24号, pp.27-61., 2017年03月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「19世紀パアン平野のカレン史—「仏教徒カレン」をめぐって—」京都大学東南アジア研究所共同研究「少数民族の『多様なやりとり』にみる現在の『ゾミア』地域—異なる政治

「経済体制下での比較研究」報告（於・龍谷大学ともいき荘、2016年12月10日）

- ・「ミャンマーの民族問題の概要ーその起源と歴史理解をめぐって」International Development Field Camp for Myanmar and Japan Youth Leaders 2017 研修会講演（於・立命館大学大阪いばらきキャンパス、2017年1月22日）
- ・「ミャンマー近現代史講義（1）アウンサンスーチーとビルマ民族主義運動の歴史」法務省法務総合研究所講演（於・大阪中之島合同庁舎、2017年6月12日）
- ・「ミャンマー近現代史講義（2）ミャンマーの民族問題と宗教問題」法務省法務総合研究所講演（於・大阪中之島合同庁舎、2017年8月10日）
- ・*Karen and the Thakin Historiography*. 京都大学第32回ゾミア研究会報告（於・津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス、2018年1月6日）
- ・“How in Myanmar “National Races” Came to Surpass Citizenship and Exclude Rohingya” by Dr. Nick Cheesman, 京都大学第33回ゾミア研究会コメンテーター、（於・京都大学東南アジア地域研究研究所、2018年1月23日）

〈研究助成〉

- ・科研費基盤研究（C）「ミャンマーのカレンを事例とした民族生成と民族問題化の過程に関する歴史研究」（研究代表者：池田一人、課題番号：16K03082、平成28～30年度）
- ・科研費基盤研究（B）「声と文字をめぐる宗教実践の研究ー東南アジアと隣接地域の比較」（研究代表者：村上忠良、課題番号：H1503282、平成27～30年度）研究分担者
- ・科研費基盤研究（A）「東南アジア大陸部宗教研究の新パラダイムの構築」（研究代表者：片岡樹、課題番号：16H01895、平成28年～31年度）研究分担者

〈調査活動〉

- ・平成28年12月22日ー平成29年1月3日ミャンマー・カレン州における科研調査
- ・平成29年2月13日ー23日ミャンマー・カレン州における科研調査
- ・平成29年3月8日ー21日イギリス・ロンドン市における科研調査
- ・平成29年9月4日ー23日イギリス・ロンドン市における科研調査
- ・平成30年2月18日ー24日ミャンマー・ヤンゴン市における科研調査
- ・平成30年3月7日ー21日イギリス・ロンドン市における科研調査

[その他の活動]

〈管理運営〉

- ・教務委員

〈学会活動〉

- ・東南アジア学会総務担当理事

井上 さゆり (INOUE Sayuri) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化表象論XVIII A、アジア言語文化表象論XVIII B、アジア・

アフリカ文化表象論特別研究A、アジア・アフリカ文化表象論特別研究B

〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習（ビルマ語）

〈学部教育担当科目〉 ビルマ語 1、ビルマ語 2、ビルマ語 11、ビルマ文化演習 I a、ビルマ文化演習 I b、ビルマ文学講義 I a、ビルマ文学講義 I b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ビルマ古典音楽、ビルマ音楽史、ビルマ古典文学

〈所属学会〉 東南アジア学会、東洋音楽学会、日本口承文芸学会、Burma Studies Group、The Society for Ethnomusicology、International Council for Traditional Music

[研究業績]

〈図書〉

- ・（共著）井上さゆり 2018. 「第9章メディアから生まれるポピュラー音楽—ミャンマーの流行歌謡とレコード産業」福岡まどか・福岡正太編著『東南アジアのポピュラーカルチャー—アイデンティティ・国家・グローバル化』スタイルノート, pp. 302-329。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・“Musical Notations and Oral Tradition in Myanmar Classical Songs: Harpist U Myint Maung’s Notations and Its Transmission System,” 2nd International Conference on Burma/Myanmar Studies, 於：ミャンマー・マンダレー大学, 2018年2月17日。
- ・“Musical Notations in Burmese Classical Songs’ Oral Tradition: Harpist U Myint Maung’s Challenges in Transcribing Music,” 44th International Council for Traditional Music, 於：アイルランド・リムリック大学, 2017年7月18日。

〈調査活動〉

- ・2017.8.30~9.26 ミャンマー・マンダレー市（音楽の口頭伝承に関する調査）

〈研究助成〉

- ・平成26~29年度科学研究費基盤（C）

[その他の活動]

〈管理運営〉 図書委員会委員、評価委員会委員

【アジアⅢ講座】

〔ヒンディー語〕

高橋 明 (TAKAHASHI Akira) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 南アジア文化概論、アジアアフリカ文化表象論特別研究

〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習(ヒンディー語1)

〈学部教育担当科目〉 ヒンディー語4、ヒンディー語12, ヒンディー語II、ヒンディー文学演習1, 南アジア文化概論

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ヒンディー文学研究、マラーティー語語彙研究

〈所属学会〉 日本南アジア学会

[研究業績]

〈調査活動〉

- ・現代マラーティー語語彙の調査と語彙収集を行っています。少しずつ中期マラーティー語の語彙についても調査・収集の範囲を広げています。

長崎 広子 (NAGASAKI Hiroko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化資源論 III

〈共通教育担当科目〉 アジア言語文化研究入門

〈学部教育担当科目〉 ヒンディー語 4、ヒンディー語 13、ヒンディー語 III、ヒンディー文学演習 III、インド文化史講義 I

[研究活動]

〈研究テーマ〉 中世ヒンディー文学

〈所属学会〉 日本印度学仏教学会、日本南アジア学会、American Oriental Society

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・ "Duality in the Language and Literary Style of Raskhan's Poetry", *Text and Tradition in Early Modern North India*, OUP India, 2018 年 01 月

〈論文〉

- ・ アブドゥル・ラヒームカーンカーナー作『都市の輝き』—ムガル帝国期の女の恋模様—, *印度民俗研究*, 16・77-99, 2017 年 03 月
- ・ ムガル皇帝アクバルとふたりのスールダース—聖者伝文学の記述をとおして, *印度民俗研究*, 17・43-63, 2018 年 03 月
- ・ ヒンディー詩における音韻のリズム, *南アジア言語文化*, 9・56-76, 2018 年 03 月

〈書評・論評・紹介〉

- ・ ブラジ詩人たちの足跡, *インド通信*, 468・1-3, 2017 年 10 月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Japan men Hindi ke adhyapan aur adhyayan, Hiroko Nagasaki, *Asia mein Hindi: East Asian Perspectives on Hindi Studies*, 2017 年 10 月, 北京大学

〈研究助成〉

- ・ 科研費補助金基盤研究C「ヒンディー詩論書の形成と発展」

〈調査活動〉

- ・ Braj Bhasha/early Hindi workshop, Basnko, Bulgaria (2017.7.20-8.1)
- ・ Bihar Rashtra Bhasha Parishad, Varanai & Nagari Pracarini Sabha, Varanasi, India (2018.3.4-3.13)

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本南アジア学会常務理事

〈社会貢献活動〉 アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員

西岡 美樹 (NISHIOKA Miki) 准教授

<http://www1.lang.osaka-u.ac.jp/user/dumas/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語構造論 XV (a/b)

〈共通教育担当科目〉 ことばの世界

〈学部教育担当科目〉 ヒンディー語 3、ヒンディー語 11、ヒンディー語学演習 I(a/b)、ヒンディー語学演習 II (a/b)、南アジア語学演習 I(a/b)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ヒンディー語の文法記述と日本語との対照研究、ヒンディー語ウェブコーパスと検索システムの開発

〈所属学会〉 日本言語学会、言語科学会、関西言語学会、日本南アジア学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・デーバナーガリー文字練習帳，西岡美樹，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2017年03月．
- ・初級ヒンディー語文型練習帳，西岡美樹，Gunjan Sharma, Ashwani Kumar Srivastava，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2017年03月．
- ・現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編，西岡美樹，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2017年03月．
- ・初級ヒンディー語 会話編，西岡美樹，Ranjana Narsimhan，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2017年03月．
- ・初級ヒンディー語 語彙集，西岡美樹，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2017年03月．

〈論文〉

- ・ The Development of a Web Corpus of Hindi Language and Corpus-based Comparative Studies to Japanese, Miki Nishioka and Shiro Akasegawa, 6th Workshop of South and Southeast Asian Natural Language Processing Proceedings of the Conference, pp. 114-123, 2016年12月．

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Genre Effects of Compound Verbs in Hindi-Urdu: A Comparative Study of *jānā* with Japanese Verb *shimau* in Translations, Translation and Knowledge Society – National Translation Mission, Central Institute of Indian Languages (CIIL), 2018年3月8日．

- ・ヒンディー語における名詞句と「形容詞」の再考ヒンディー語における名詞句と「形容詞」の再考—インド伝統文法と体言化理論融合の試み—, 国立国語研究所「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」研究発表会, 2017年10月26日.
- ・ Does *denā* GIVE as a V2 render benefactive meaning in Hindi?: A comparative case study of Hindi, Japanese and Sinhalese, Miki Nishioka, 言語学会第19回国際年次大会 (JSL2017), 2017年07月2日.
- ・ Does *denā* GIVE as a V2 render benefactive meaning in Hindi?: A corpus-based comparative analysis in Hindi and Japanese, Miki Nishioka, 33rd South Asian Languages Analysis Roundtable (SALA-33), 2017年05月16日.
- 〈研究助成〉
- ・ 科学研究費 基盤研究 C「ウェブコーパスを利用したヒンディー語・日本語の複合動詞の対照研究」
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉安全衛生委員

Yogi Chaitanya Prakash , Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Hindi language III, Hindi Literature II, Culture of South Asia III

<General Education classes>

<Foreign language classes> Hindi 5, Hindi 1, Hindi 14, Hindi 15

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Media, Modern Hindi Poetry, Spirituality

<Academic society memberships> Akshram (An International Institution for Hindi Language and Literature)

[ウルドゥー語]

松村 耕光 (MATSUMURA Takamitsu) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化表象論

〈学部教育担当科目〉ウルドゥー語実習、ウルドゥー文学演習、ウルドゥー語学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉近代ウルドゥー文学

〈所属学会〉日本南アジア学会、日本印度学佛教学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「カンバルポーシュの旅行記について」、『言語文化研究』43号 (2017年3月)

〈翻訳・翻訳書〉

- ・「亡き母の思い出—イクバルのウルドゥー詩(10)—」、『イスラーム世界研究』10巻(2017年3月)
- ・「ガザル—イクバルのウルドゥー詩(11)—」、『イスラーム世界研究』11巻(2018年3月)

〈書評・論評・紹介〉

- ・「抒情詩」、『インド文化事典』、丸善出版(2018年1月)

[その他の活動]

〈管理運営〉大学院教務委員会委員長、外国学部教務委員会委員長、ウルドゥー語部会部長、ウルドゥー語専攻代表

山根 聡 (YAMANE So) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語社会動態論IIIa,b

〈学部教育担当科目〉ウルドゥー語 2、ウルドゥー語 12、南アジア文化概論 a,b、ウルドゥー語IIIa,b、南アジア文化演習Ia,b

[研究活動]

〈研究テーマ〉ウルドゥー文学、南アジア・イスラーム論

〈所属学会〉日本南アジア学会、大阪大学言語社会学会、アジア政経学会、西南アジア研究会、日本印度学仏教学会、日本オリエント学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・「パキスタン」『NHK データブック 世界の放送 2017』、NHK 出版、ISBN978-4-14-007261-5, 2017年02月、pp.74-77.
- ・「植民地時代における言語の政治化」(pp.138-139)「イスラームとナショナリズム」(pp.192-193)「近代イスラーム思想」(pp.224-225)「パキスタンのファッション」(pp.352-353)「イスラームと食」(pp.370-371)「果実の王様 マンゴー」(p.387)『インド文化事典』、丸善、ISBN978-4-621-30235-4, 2018年1月
- ・「パキスタン」『NHK データブック世界の放送 2018』、NHK 出版、ISBN978-4-14-007264-6, 2018年2月,pp.72-75.

〈論文〉

- ・'Jadīd Urdū Adab ke Farogh meñ Aḥmad Nadīm Qāsmī kī Khidmāt', *Al-Aqrībā*, Vol.19, No. 4, 2016年12月
- ・パキスタン・第3次シャリーフ政権の課題—対印関係をめぐる軍との関係—, 『紀要 国際情勢』, 第87号, 2017年03月,pp.99-104.
- ・「2017年のパキスタン情勢—首相辞任と中国の南アジア域内政治への関与—」, 『国際情

勢』, 88号, 2018年03月, pp.101-111.

〈書評・論評・紹介〉

- ・「イギリス植民地支配と食をめぐる変化」(井坂理穂との共著), VESTA, 2016年秋号, 味の素, 2016年11月, pp.60-65.
- ・「書評 小杉泰『イスラームを読む—クルアーンと生きるムスリムたち』」、『イスラーム世界研究』, (10) 317-320, 2017年3月, pp.317-320.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「パキスタン・シャリーフ政権の課題—外交、内政と軍—」, 中東情勢研究会, 2016年11月18日
- ・「南アジアのムスリムの域外ネットワークについて—東南アジアとの交流から—」, ジャワにおけるイスラーム化研究会, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所会議室, 2016年11月,
- ・「これからだ—開花を待つパキスタンの潜在力」 「シンポジウム・パーキスターン 豊かな言語文化が育むネットワーク」, 日本パキスタン協会、日本大学講堂、2016年11月
- ・‘The Taste of Colonization—A Dilemma between Tradition and Modernity among Indo-Muslims under the British Raj in Nadhir Ahmad’s Ibn al-Waqt’, “Cookbooks and Culinary Practices Food, Body and Identity in India from Medieval to Contemporary Times”, ジャワーハルラール・ネルー記念図書館会議室 (インド・デリー)、2016年12月21日,
- ・阪神シニアカレッジ4年生講座, 「宗教か、テロか—パキスタン社会での変化」, 2017年1月
- ・阪神シニアカレッジ2年生講座, 「南アジアのイスラーム」, 2017年1月
- ・Social and Political Modification in Pakistan in the War on Terror, So YAMANE, International Conference "Reconstructing State Security and National Integration in the Middle East, 2017年1月27日, 同志社大学志高館
- ・'Dual Trends of Sufi Poetry Qawwali in South Asia', Islamic Studies and the Study of Sufism in Academia: Rethinking Methodologies, 京都大学稲盛記念会館、2017年5月21日,
- ・「南アジア・イスラーム研究の動向と将来—『加賀谷寛著作集』を通して」, 一般社団法人日本オリエント学会第317回公開講演会, 2017年5月27日
- ・「パキスタンにおける国家の正統性と宗教」, 2017年度 MINDAS 合同研究会, 国立民族学博物館、2017年9月2日
- ・宝塚国際理解ゼミナール「現代パキスタンの課題—宗教を掲げるテロへの対応」, 「現代パキスタンの課題—宗教を掲げるテロへの対応」, 2017年09月14日
- ・阪神シニアカレッジ「南アジアの食文化に見る宗教アイデンティティ」 「南アジアの食文化に見る宗教アイデンティティ」, 2017年9月19日
- ・阪神シニアカレッジ「東西文化の交流にみる南アジア」 2017年09月
- ・Names of Restaurants as Religious Symbols, So YAMANE, 'Contours of Culinary Transformations

in South Asia' ICSSR (India)-JSPS (Japan) Bilateral Program , 大阪大学中之島センター、2017年09月26日

- ・「コメント 東南アジアのイスラーム・メディアから見た世界：1920～30年代を中心に」、南山大学アジア・太平洋研究センター主催・東南アジア学会中部例会共催「東南アジアのイスラーム・メディアから見た世界：1920～30年代を中心に」、南山大学、2017年10月14日
 - ・「パキスタンの現状 2017—首相辞任と中パ関係にみる新たな展開」、中東情勢研究会、2017年10月20日
 - ・ 'Some Remarks on Muslim Society in Indonesia- From the Viewpoint of South Asian Studies', 2017年度「ジャワ語文献にみるジャワのイスラーム化再考」第2回研究会(大阪大学豊中キャンパス全学教育総合棟ステューデント・コモンズ セミナー室 C), 2017年11月25日
 - ・ 'Comment on Asif Farrukhi's "A New Harvest of Anger: Reading an Alternative Narrative of Pakistan's Society in Contemporary Urdu Literature"', FINDAS International Workshop "Literary Intervention and Political Culture in South Asia", 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2017年12月9日
 - ・ "China's New Position in South Asia", "Between Asias: inter-regional spaces"九州大学西新プラザ大会議室, 2017年12月16日
 - ・「現代パキスタン社会の動員にみる政治と宗教」2017年 RINDAS 第2回研究会・KIAS「中道派」研究会 龍谷大学大宮キャンパス, 2017年12月20日
 - ・阪神シニアカレッジ4年生講座「宗教とテロの峻別へ—パキスタンの選択」, 「宗教とテロの峻別へ—パキスタンの選択」, 2018年01月12日
 - ・阪神シニアカレッジ1年生講座「南アジアのイスラーム—四億の少数派」, 「南アジアのイスラーム」, 2018年01月12日
 - ・「南アジア・スーフイズムの諸相」 「ジャワ語文献にみるジャワのイスラーム化再考」第3回研究会(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究科会議室、2018年3月27日〈調査活動〉)
 - ・ジャワのイスラーム化に関する遺跡調査 (科学研究費) 2017年8月
 - ・デリー・スルタン期のイスラーム建築調査 (東京大学東洋文化研究所) 2018年3月2日～8日
- [その他の活動]
- ・日本・パキスタン協会の活動にみえる日パ友好ついて, NHK 国際放送(ウルドゥー語), 2016年11月
 - ・「こんなところにあるあるが 土曜あるある晩餐会 印パ国境セレモニー」, テレビ朝日, 2017年07月
 - ・「まちのラジオ 大阪大学社会学連携事業」, 「まちのラジオ 大阪大学社会学連携事業」, 2017

年 11 月

〈管理運営〉 言語文化研究科副研究科長、副理事(渉外本部)

〈学会活動〉 日本南アジア学会英文叢書委員会委員、大阪大学言語社会学会理事

〈社会貢献活動〉 松下幸之助記念財団松下幸之助国際スカラシップ選考委員、世界政経調査会中東情勢研究会委員、京都大学ケナン・リファーイー・スーフイズム研究センター上席研究員、

北田 信 (KITADA Makoto) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化資源論

〈共通教育担当科目〉 アジアの文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉 ウルドゥー語学演習、ウルドゥー文学演習、南アジア文化演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ウルドゥー語文学、ベンガル語、新期インド・アリア語文学

〈所属学会〉 日本南アジア学会、日本印度学仏教学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Makoto Kitada, “Music Therapy Mentioned in the Sarmāyah-i ‘Īsrāt, an Urdu Treatise on Sitar Playing”, *Traditional South Asian Medicine Vol. 9*, 2017, Reichert, Wiesbaden, pp. 120-135. 査読無
- ・ 北田 信「ウルドゥー語教育と南アジア伝統音楽」、『外国語教育のフロンティア 1』大阪大学大学院言語文化研究科、2018 年: 237-245 教育実践報告
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・ “Nepalesische Tradition des Tanztheaters: Der Kārtik Nāc des Pharping”, *Mitteldeutscher Südasientag*, ドイツ・ハレ大学、2017 年 6 月 22 日
- ・ 「デカンの美食とポルノグラフィー：ダカニー・ウルドゥー語の詩人ヌスラティー」南アジア研究会（関西）大阪大学中之島センター、2017 年 12 月 16 日
- ・ “Gastronomy and Hyerogamy in Deccan: Nuṣratī, the poet of Dakanī Urdu” フランス国立東洋言語文化研究所 (INALCO, Institut nationale des langues et civilisations orientales) 2018 年 3 月 8 日、招聘講演
- ・ “Les arts folkloriques Bengalis” フランス国立東洋言語文化研究所 2018 年 3 月 9 日、招聘講演
- ・ “Musique, poésie et peinture: Les peintures de Rāga-mālā” フランス国立東洋言語文化研究所 2018 年 3 月 13 日、招聘講演
- ・ “Nepalese Traditional Theater” フランス国立東洋言語文化研究所 2018 年 3 月 14 日、招聘講演

〈研究助成〉

・ 科研費（C）

〈調査活動〉

- ・ 2016年11月、ネパール、ファルピン村 舞踊劇の調査
- ・ 2017年3月、インド・ハイダラーバード ダカニー・ウルドゥー文学の調査
- ・ 2017年9月、ネパール・カトマンドゥ市 演劇写本の研究
- ・ 2017年11月、ネパール、ファルピン村 舞踊劇の調査
- ・ 2018年2月、インド・西ベンガル州バンクラ県 伝統芸能の調査

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本南アジア学会英文誌編集委員

〈社会貢献活動〉 北インド古典音楽演奏、大阪大学 21世紀懐徳堂シンポジウム第3回「大阪大学外国語学部がめざす外国学～言葉とともに、箕面とともに」箕面市立メイプルホール、大阪大学共創機構 社学共創本部主催、2018年3月1日

マルグーブ・フセイン・ターヒル (TAHIR, Marghoob Hussain) 特任教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 昨年度と同じ

〈共通教育担当科目〉 昨年度と同じ

〈学部教育担当科目〉 昨年度と同じ

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ウルドゥー語文学

〈所属学会〉 無

[研究業績]

〈論文〉

- ・ TAHIR, Marghoob Hussain, “Jāpānī tulabā ko Urdū bol cāl sikhāne ke tajribāt aur tajāvīz” (日本人学生を対象としたウルドゥー語会話教育の経験と提案)、『外国語教育のフロンティア1』大阪大学大学院言語文化研究科、2018年: 247-251 教育実践報告
- ・ TAHIR, Marghoob Hussain, “Jāpānī tulabā ko Urdū še‘r o adab kī tadrīs ke tajribāt aur tajāvīz” (日本人学生を対象としたウルドゥー文学教育の経験と提案)、『外国語教育のフロンティア1』大阪大学大学院言語文化研究科、2018年: 253-257 教育実践報告

【アジア・アフリカ講座】

[アラビア語]

近藤 久美子 (KONDO Kumiko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化資源論 VIII、地域知識論特定研究 II

〈共通教育担当科目〉 国際教養科目(中東の文化と社会を知る)

〈学部教育担当科目〉 アラブ文学講義、アラブ文学特別演習、アラビア語演習 VIII、アラビア語 14、アラビア語 2、地域知識論 II

[研究活動]

〈研究テーマ〉 アラブ古典文学、アラビア語文法、アラブ民俗文化

〈所属学会〉 日本中東学会、説話・伝承学会、日本昔話学会、東アジア恠異学会、世界文学会

依田 純和 (YODA Sumikazu) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化資源論

〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習 (アラビア語初級)

〈学部教育担当科目〉 アラビア語・兼修外国語 (アラビア語中級)・アラビア語学特別演習、アラビア語演習・マルタ語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 アラビア語方言論

〈所属学会〉 日本中東学会、関西アラブ研究会、AIDA (Association internationale de dialectologie arabe)、International Association of Maltese Linguistics

[研究業績]

〈論文〉

“The Historical h in Some Eastern Maghribi Dialects Revisited” in *Tunisian and Libyan Arabic Dialects : Common Trends - Recent Developments - Diachronic Aspects* (Zaragoza 2017) 85-100

〈口頭発表・講演・学会報告〉

“Some pseudo-classical elements in the modern Judaeo-Arabic of Tripoli” in יום עיון לכבוד מורנו סימון הופקינס לרגל פרישתו לגמלאות 29, 11, 2017 (at Hebrew University of Jerusalem).

[その他の活動]

〈管理運営〉 C I S 世話人

福田 義昭 (FUKUDA Yoshiaki) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化表象論

〈共通教育担当科目〉 東洋の文学

〈学部教育担当科目〉 アラビア語 1・2・11、アラビア語演習、アラブ文学特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 アラビア語、アラブ文学、日本・イスラーム関係史

〈所属学会〉 日本中東学会、日本オリエント学会、関西アラブ研究会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・「アラブ世界の夢文化とナギーブ・マフフーズの夢文学」荒木浩編著『夢と表象——眠りとこころの比較文化史』勉誠出版、2017年1月、200–205頁

〈論文〉

- ・「昭和期の日本文学における在日ムスリムの表象（3）——神戸篇（後篇）陳舜臣」『アジア文化研究所研究年報』（東洋大学アジア文化研究所）第52号（2017）、2018年2月、1（366）–23（344）頁
- ・「昭和期の日本文学における在日ムスリムの表象（2）——神戸篇（前篇）」『アジア文化研究所研究年報』（東洋大学アジア文化研究所）第51号（2016）、2017年2月、129（308）–108（329）頁

〈翻訳・翻訳書〉

- ・ユースフ・ザイダーン『アザゼル』（抄訳および解説）（原著：Yūsuf Zaydān, ‘Azāzil, 14th ed., Cairo: Dār al-Shurūq, 2009）、中東現代文学研究会編『中東現代文学選 2016』、2017年3月、299–328頁

〈書評・論評・紹介〉

- ・「ユースフ・ザイダーン——宗教的不寛容への批判」（新 世界文学ナビ・中東編〈23〉）『毎日新聞』2017年3月1日夕刊
- ・「アラール・アルアスワーニー——物語性とタブーへの挑戦」（新 世界文学ナビ・中東編〈22〉）『毎日新聞』2017年2月1日夕刊
- ・「ハーリド・アルハミーシー——庶民の不満、鋭く写し取り」（新 世界文学ナビ・中東編〈21〉）『毎日新聞』2017年1月12日夕刊
- ・書評「〈大修館の一冊〉梅田修著『人名から読み解くイスラーム文化』」『英語教育』Vol.65, No. 10（2016年12月号）、93頁

〈調査活動〉

- ・2017年3月8日–16日 エジプトの現代文学に関する調査および資料収集（カイロ）
- ・2018年2月16日–23日 オマーンの現代文学に関する調査および資料収集（マスカット／ニズワ）（科研費（基盤研究B）「現代中東における「ワタン（祖国）」的心性をめぐる表象文化の発展的研究」（代表：京都大学：岡真理）による）
- ・2018年3月12日–21日 エジプトの現代文学に関する調査および資料収集（カイロ）

[その他の活動]

〈管理運営〉 学生支援委員会委員長

〈学会活動〉 日本中東学会年報編集委員

仲尾 周一郎 (NAKAO Shuichiro) 助教

<http://fieldnet.aa-ken.jp/openpne/web/member/717>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化資源論Ⅴ

〈共通教育担当科目〉 特別アラビア語演習（アラビア語）Ⅱ

〈学部教育担当科目〉 アラビア語 3、アラビア語 4、アラビア語 14、アラビア語Ⅱ、アラブ文化論特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 記述言語学、接触言語学、東アフリカ地域研究

〈所属学会〉 日本アフリカ学会、日本ナイル・エチオピア学会、国際アラビア語方言学会、世界アフリカ言語学会議

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Shuichiro Nakao (2017) “A Grammar of Juba Arabic”, 博士論文 (京都大学大学院文学研究科)
- ・ 仲尾周一郎 (2017) 「ベニシャングル・アラビア語に関する覚書 (1)」 *Studies in Ethiopian Languages* 6: 21–43.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ 「南スーダンのアラビア語ポップス—都市言語と都市文化の 100 年—」 日本アフリカ学会 関西支部 2016 年度第 8 回例会・2016 年度第 1 回若手研究会 表現する主体としてのアフリカの人のびと—日常会話・文学・音楽にみるアフリカの言語実践—, 大阪大学豊中キャンパス, 2017 年 1 月 7 日.
- ・ “Monogenesis Theory Reassessed: A View from Arabic Pidgins and Creoles”, Creolistics Workshop XI, Justus Liebig University Gießen, Gießen, Germany, 24 March 2017.
- ・ “On three hitherto unknown vocabularies of Ethiopia-Sudan border languages”, 平成 29 年度第一回エチオピア諸語研究会, 2017 年 7 月 22 日.

〈研究助成〉

- ・ 日本学術振興会特別研究員 PD・研究奨励費 (課題番号 26・2651) 「近現代ナイル峡谷におけるアラビア語ピジン・クレオール生成に関する通時的研究」(2014-2016)
- ・ 科研費・基盤研究(B) (研究課題番号: 26300022) 「少数言語のドキュメンテーションと、エチオピア諸言語のダイナミズムに関する調査研究」 研究代表者: 乾 秀行 (2014-2018)

〈調査活動〉

- ・ オーストラリア・シドニー (フィールドワーク・文献収集): 2017 年 2 月 19 日~3 月 1 日
- ・ ドイツ・ハンブルク (文献収集): 2017 年 3 月 20 日~22 日
- ・ エチオピア・アジスアベバ/アソサ (フィールドワーク・文献収集): 2017 年 9 月 2 日~16 日
- ・ ケニア・ナイロビ (フィールドワーク・文献収集): 2018 年 3 月 11 日~18 日

[その他の活動]

〈管理運営〉 図書委員会委員

〈学会活動〉 関西アラブ研究会編集委員、京都大学言語学研究編集委員

〈社会貢献活動〉

Abdelrahman Tareq Sadeq Elsharqawy, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes>

Courses of Arabic language and linguistics

<General Education classes>

A course titled Arabic Islamic culture.

<Foreign language classes>

Different language levels for Arabic department students.

[Academic activities]

<Research Fields and interests>

Arabic language and literature, Comparative literature, Translation studies.

<Academic society memberships>

JAMES *Japanese association for middle eastern studies, Kansai association for Arabic studies.

[ペルシア語]

藤元 優子 (FUJIMOTO Yuko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア・アフリカ文化表象論特別研究、アジア言語文化表象論 XV

〈共通教育担当科目〉 中東の文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉 ペルシア語 2、ペルシア語 12、ペルシア語 V、ペルシア文学講義、ペルシア文学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 現代イラン文学と女性

〈所属学会〉 日本中東学会、日本オリエント学会、大阪大学言語社会学会、国際イラン学会

[研究業績]

〈論文〉

・「大阪大学におけるペルシア語教育の現状と問題点」『イラン研究』13, 2017, 17-26.

〈翻訳・翻訳書〉

・スィーミン・ダーネシュヴァル「楽屋」中東現代文学研究会・編『中東現代文学選 2016』2017, 61-80.

〈書評・論評・紹介〉

・”Khabgah-e shomareh-ye dah-e dokhtaran(第10女子寮),” Dastan-e Hamshahri, 80 (Aug.-Sept.

2017), 52-59.

- ・「M.ラヴァーニープール著『溺れし者』 解題」『イラン研究』14, 2018, 95-126.
- ・「アカデミー賞外国語映画賞「セールスマン」」『毎日新聞』2017.6.9. 夕刊
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・「現代イランの人名」「砂漠の探求者」を探して—女性たちと百年 第三回研究会 (2017.4. 東京大学)
- ・「『溺れし者』再考—湾岸文学作家としての M.ラヴァーニープール—」中東現代文学研究会 (2017.6. 東京外国語大学本郷サテライト)
〈研究助成〉
- ・科研 基盤研究 (B)「現代中東の「ワタン(祖国)」的心性をめぐる表象文化の発展的研究」
H27～H30) 研究分担者
[その他の活動]
〈管理運営〉学部入試委員会委員、全学入試委員会委員

竹原 新 (TAKEHARA Shin) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化資源論 VIA、アジア言語文化資源論 VIB

〈共通教育担当科目〉中東の文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉ペルシア語 3、ペルシア語 1 3、ペルシア語 IIIa、ペルシア語 IIIb、イラン文化特別演習 a、イラン文化特別演習 b、イラン文化講義 a、イラン文化講義 b

[研究活動]

〈研究テーマ〉イランの口承文芸に関する現地調査資料の基盤整備と民俗学的応用研究

〈所属学会〉日本オリエント学会、説話・伝承学会、日本昔話学会、大阪大学言語社会学 会

[研究業績]

〈論文〉

- ・竹原新「大阪大学外国語学部におけるペルシア語教育の歴史」、『イラン研究』第 13 号、2017 年、pp. 3-8。
- ・竹原新「イランの怪談」、『説話・伝承学』25 号、2017 年、pp. 27-42。
- ・竹原新「イランの昔話とフィールドワーク」、『昔話—研究と資料—』45 号、2017 年、pp. 60-71。
- ・竹原新「イランの憑霊譚」、『イラン研究』第 14 号、2018 年、pp. 33-56。

〈研究助成〉

- ・「イランの口承文芸に関する現地調査資料の基盤整備と民俗学的応用研究」、平成 26～30 年度 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C) 研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C)

〈調査活動〉

- ・「イラン口承文芸に関する資料収集」(イラン)、「イランの口承文芸に関する現地調査資料の基盤整備と民俗学的応用研究」、平成26～30年度 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C)、2017年9月。

[その他の活動]

〈管理運営〉大学院言語文化研究科言語社会専攻/日本語・日本文化専攻ネットワーク管理委員会委員、大学院言語文化研究科言語社会専攻/日本語・日本文化専攻コンテンツ管理委員会委員

〈学会活動〉説話・伝承学会委員、日本昔話学会委員

Jahedzadeh Shorblagh Behnam 講師

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉中東・アフリカ言語文化研究入門

〈学部教育担当科目〉ペルシア語演習、ペルシア語IV、アジア言語構造論、ペルシア語II、イラン語学講義、ペルシア語1

〈研究テーマ〉『ペルシア語の対照比較的研究』

〈所属学会〉関西言語学会、大阪大学言語社会学会

〈論文〉

- ・ HOSSEINI, Ayat. JAHEDZADEH Behnam, “The Status of Deverbal Nouns in Japanese Bilingual Dictionaries” *Frontier of Foreign Language Education*, 2018年, No1. Pp83-96.
- ・ JAHEDZADEH Behnam, 「現代ペルシア語における表記法の多様性及び乱れについて」 *Frontier of Foreign Language Education*, 2018年, No1. Pp71-82.
- ・ JAHEDZADEH Behnam, 「ペルシア語の移動動詞 amadan(to come)と raftan(to go)の使用にかかる意味的制限とコーパスにおけるその使用頻度について」2018年, 『イラン研究』第14号, pp.17-32.
- ・ JAHEDZADEH Behnam, 「外国語教育における到達度目標の国際基準とペルシア語教育への適用の可能性」『イラン研究』第13号, 2017年, pp.58-79.
- ・ JAHEDZADEH Behnam, 「ペルシア語の移動動詞 amadan と raftan の特性について—英語と日本語の移動動詞との対照比較を中心に—」『イラン研究』第13号, 2017年, pp.118-135.

REZAI BAGHBIDI Hassan, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Courses on Persian, Middle Persian, Iranian Linguistics, Iranian Culture

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Iranian Linguistics, Iranian Studies, Sanskrit

<Academic society memberships> Permanent Member of the Academy of Persian Language and Literature, Member of the International Association of Sanskrit Studies (IASS)

[Research achievements]

<Papers> The Coins of Sultan Mahmud of Ghazna、Pomegranate: From Iran to Japan (A Linguistic Investigation), Linguistic History of Rayy up to the Early Islamic Period

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference> Iranian Gypsies: History, Culture, Language; Iranian Onomastics: A Historical Review

[トルコ語]

大澤 孝 (ŌSAWA Takashi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語社会動態論、アジア・アフリカ言語文化論序論、広域イスラム社会論

〈共通教育担当科目〉国際教養科目

〈学部教育担当科目〉トルコ語 12a,b, トルコ語 IIa, b, トルコ語学概論 a,b, トルコ歴史講義 a,b, トルコ文化演習 a,b.

[研究活動]

〈研究テーマ〉中央ユーラシアのテュルク系遊牧民の歴史と文化、古代テュルク語碑文と遺跡のフィールド調査

〈所属学会〉内陸アジア学会、西南アジア研究学会、北海道大学文学部東洋史談話会会員、国際 Signum 学会.

[研究業績]

〈研究助成〉

- ・日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（A）（海外調査，平成 26～29 年度）.
- ・日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C）（一般，平成 28～30 年度）

[その他の活動]

〈学会活動〉トルコ共和国トルコ語研究誌 3 誌の査読委員会委員

藤家 洋昭 (FUJIE Hiroaki) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語構造論 VIII

〈共通教育担当科目〉特別外国語演習（トルコ語）I

〈学部教育担当科目〉トルコ語 3、トルコ語 13、トルコ語 III、トルコ語 VIII、トルコ事情演習、トルコ語学演習、チュルク語学演習、ウイグル語

[研究活動]

〈研究テーマ〉チュルク諸語の記述言語学的研究

〈所属学会〉 言語処理学会、日本言語学会

[その他の活動]

〈管理運営〉

トルコ語部会主任、トルコ語学科目代表

宮下 遼 (MIYASHITA Ryo) 准教授

研究課題

- ・近世オスマン帝国のもの書く人々の社会生活および美意識の変遷についての社会史研究
- ・現代トルコ文学における社会性についての書誌学的研究

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化表象論

〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習トルコ語

〈学部教育担当科目〉 トルコ語 1、トルコ語I、トルコ文学講義、トルコ語 11、トルコ文学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 トルコ文学（史）、トルコ文化史、近世オスマン帝国のもの書く人々：文化的選良層の社会生活と心性についての文化史研究

〈所属学会〉 日本イスラム協会、世界文学会、日本中東学会、地中海学会、日本オリエント学会

[研究業績]

著書

(単著) 宮下遼, 『多元性の都市イスタンブール: 近世オスマン帝都の都市空間と詩人、庶民、異邦人』 大阪大学出版会, 2018年2月28日.

(単著) 宮下遼 『無名亭の夜』 講談社, 2015.

(共著) 藤井光, 沼野充義, 阿部公彦, 管啓次郎, 谷崎由依, 笠間直穂子, 西崎憲, 渋谷哲也, 阿部賢一, 宮下遼, 斎藤真理子, 温又柔, 小林エリカ, 戌井昭人 『文芸翻訳入門——言葉を紡ぎ直す人たち、世界を紡ぎ直す言葉たち』 フィルムアート, 2017.

(共著) 都甲幸治, 中村和恵, 宮下遼, 武田将明, 瀧井朝世, 石井千湖, 江南亜美子, 藤野可織, 桑田 光平, 藤井光, 谷崎由依, 阿部賢一, 阿部公彦, 倉本さおり 『世界の8大文学賞: 受賞作から読み解く現代小説の今』 立東舎, 2016.

訳書・翻訳

(単訳) イェクタ・コパン 「ポルトベロ通り 22 番地」 『すばる』 2018年5月号, 集英社.

(単訳) オルハン・パムク 『僕の違和感』 宮下遼訳, 早川書房, 上下巻, 2016.

(単訳) オルハン・パムク 「窓から眺める」 宮下遼訳 『GRANTA JAPAN with 早稲田文学』 Vol. 3, 2016, pp. 151-172.

論文

(講演録) 宮下遼「イスラーム文化圏の文学的伝統とその近代化——オスマン帝国からトルコ共和国へ」『大手前比較文化学会会報』17号, 2016, pp. 16-22.

(論文) 宮下遼「母語で描かれた越境: トルコ文学における異郷ドイツのイメージ変遷」『Ex Oriente』Vol. 23, 2016, pp. 25-57.

口頭発表

(研究会発表) 宮下遼「オスマン詩におけるアリー表象: 非アレヴィー・ベクタシー詩人を中心に」アレヴィー・ベクタシー研究会, 於大阪国際大学, 2017年3月27日.

(講演会) 柴田元幸、辻原登、野谷文昭、鴻巣友季子、宮下遼「集英社文庫「ポケットマスターピース」シリーズ完結記念講演会 「海外古典に親しむ——いま世界の文学にふれる意義」」於福武ラーニングシアター, 2016年12月17日

その他

・(座談会) 宮下遼「妄想・歴史・写実 ——2016年 文学の見取り図」「今、面白い文学三冊」小野正嗣/都甲幸治/松田青子/宮下遼/柴田元幸『Monkey』Vol. 8, 2016.

〈研究助成〉

・科学研究費助成(若手研究(B)) (2017/4/1-2021/3/31)

〈その他の活動〉

・トルコ文芸文化研究会(主催、2015ー)

[スワヒリ語]

米田 信子 (YONEDA Nobuko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アフリカ言語構造論、アフリカ言語構造論特別研究

〈共通教育担当科目〉特別外国語スワヒリ語初級 a

〈学部教育担当科目〉専攻語実習スワヒリ語 3、専攻語実習スワヒリ語 11、スワヒリ語文法演習 a, b、アフリカ言語学概説 a, b、アフリカ地域文化演習IIIa, b

[研究活動]

〈研究テーマ〉バントゥ諸語の記述研究(名詞修飾構文、複文、とりたて表現、マイクロヴァリエーション)

〈所属学会〉日本言語学会、日本アフリカ学会、日本音声学会、日本文化人類学会、関西言語学会、Association for Linguistic Typology

[研究業績]

〈論文〉

・ "Noun-modifying constructions in Swahili and Japanese." Pardeshi, Prashant and Taro Kageyama (eds.) *Handbook of Japanese Contrastive Linguistics* (Handbooks of Japanese language and linguistics 6). Berlin: de Gruyter Mouton. pp.433-451. 2018. Feb.

・ "Herero." Tsunoda Tasaku (ed.) "Levels in Clause Linkage: A crosslinguistic survey." Berlin:

de Gruyter Mouton. pp.791-846. 2018. Feb.

- “Conjoint/Disjoint Distinction and Focus in Matengo (N13).” Hyman, Larry & J. van der Wal. (eds.) *The Conjoint/Disjoint Alternation in Bantu*. Berlin: de Gruyter Mouton. pp.426-452. 2017. Jan.
- 「日本語の視点からアフリカ諸語を見るー日本語とバントゥ諸語の対照研究ー」『適塾』50, pp.45-52. 2017. Dec.
- 「ヘレロ語とスワヒリ語の限定を表すとりたて小辞に関する試論」『スワヒリ&アフリカ研究』28, pp.72-90. 2017. Mar.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- 「スワヒリ語の名詞修飾節ー2種類の「関係節」の比較からー」平成29年度国際共同研究促進プログラム主催シンポジウム *Nominalization Festival 3*. 大阪大学豊中キャンパス. (招待発表) (2017年7月8日).
- 「スワヒリ語と民族語の言語接触による文法レベルの影響」ワークショップ: スワヒリ語圏アフリカにおける多言語状況の実態ー言語接触状況下での多様な言語現象から捉えるー. 日本言語学会第154回大会. 首都大学東京. (2017年6月23日)
- 「日本語の視点からアフリカ諸語を見るー日本語とバントゥ諸語の対照言語研究」洪庵忌. 適塾. (招待講演) (2017年6月5日).
- 「ガンダ語の多重目的語構文ー3つの目的語の現れ方ー」日本アフリカ学会第54回学術大会. 信州大学. (2017年5月20日).
- 「バントゥ諸語の名詞修飾構文ー意味関係と形式」*Prosody and Grammar Festa*. 国立国語研究所. (招待発表) (2017年2月19日).
- 「バントゥ諸語の関係節に見られるマイクロバリエーション」日本言語学会第153回大会. 福岡大学. (2016年12月3日).

〈研究助成〉

- 科学研究費補助金 基盤研究(C)「バントゥ諸語における従属節の形式と意味に関する比較研究」平成28~30年度 研究代表者
- 科学研究費補助金 基盤研究(C)「ニジェール・コンゴ語族における動詞構造の形態・統語論比較研究」(研究代表者: 大阪大学 小森淳子) 平成28~30年度 研究分担者

〈調査活動〉

- 2017. 4. 28~5. 8 ロンドン大学 SOAS (言語ドキュメンテーションに関する学術動向調査)
- 2018. 3. 2~3.14 タンザニア (バントゥ諸語のデータ収集)

[その他の活動]

〈管理運営〉 副理事 (共創機構担当 2017.8~)、全学入試委員 (2017.4~)

〈学会活動〉 日本言語学会評議員/編集委員、関西言語学会運営委員/編集委員、国立国語研究所共同研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員/共同研

究専門委員会外部審査委員、国際バントゥ諸語学会常任委員
〈社会貢献活動〉日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員、日本学術会議連携
会員

竹村 景子 (TAKEMURA Keiko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アフリカ言語社会構造論I、アジア・アフリカ文化表象論特別研究
〈共通教育担当科目〉中東・アフリカ言語文化研究入門（専門基礎教育）、アフリカの文化
と社会を知る（国際教養1）
〈学部教育担当科目〉スワヒリ語1、スワヒリ語14、アフリカ地域文化特別演習I

[研究活動]

〈研究テーマ〉スワヒリ語諸方言の文法記述、スワヒリ現代文学研究、女性のライフヒスト
リー研究
〈所属学会〉日本アフリカ学会、日本言語学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・“Nini ndiyo ‘Lugha’ - Kuzingatia Tofauti baina ya ‘Lahaja’ na ‘Kiswahili Sanifu’ Visiwani Zanzibar -”. *Swahili & African Studies* 29:167-187 (2018.3)
- ・“Miundo ya Sentensi za Njeo Iliyopita katika Kitumbatu-Gomani - Kwa Kulinganisha na Kichaani na Kiswahili Sanifu -”. *Swahili & African Studies* 28:109-121 (2017.3)

〈書評・論評・紹介〉

- ・「ザンジバルとの30年ーチャアニ村滞在雑記ー」『アフリカ文学研究会会報 MWENGE』
44:68-71 (2018.1)
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・「アフリカの言語を学ぶ楽しさースワヒリ語を通して見えたものー」@阪大フェスタ（セ
ミナー）(2017.3)
- ・「スワヒリ地方の人びとの暮らしー衣食と女性の仕事に着目してー」@東洋大学附属姫路
高等学校高大連携特別講義 (2017.7)
- ・「周縁から世界を見るースワヒリ語を通して何が見えるかー」@兵庫県立伊丹北高等学校
「国際理解講演会」(2017.9)

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金（基盤C：28-30 研究代表者「ザンジバルにおけるスワヒリ語諸変種の
記述研究ー文法・語彙の差異に着目してー」）
- ・科学研究費補助金（基盤S：28-32 研究分担者「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克
服：人類の未来を展望する総合的地域研究」）

〈調査活動〉

・タンザニア連合共和国（2017年8月12日～9月3日）

[その他の活動]

〈管理運営〉 外国語学部副学部長

〈学会活動〉 日本アフリカ学会評議員・理事・『アフリカ研究』編集委員長（2017年3月末日まで）、日本アフリカ学会選挙管理委員会委員長（2017年度）、大阪大学言語社会学会監事

小森 淳子 (KOMORI Junko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アフリカ言語構造論特別研究

〈共通教育担当科目〉 スワヒリ語初級

〈学部教育担当科目〉 スワヒリ語 2、スワヒリ語 15、スワヒリ語I、西アフリカ諸語演習（バンバラ語）、アフリカ言語学講義、アフリカ地域文化特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 アフリカ言語学（ニジェール・コンゴ語族の動詞形態論・統語論研究）

〈所属学会〉 日本アフリカ学会、日本言語学会

[研究業績]

〈論文〉

小森淳子（2017）「バンバラ語のアクセントについて」、『スワヒリ&アフリカ研究』28号、pp.91-109、大阪大学大学院言語文化研究科スワヒリ語専攻（2017年3月発行）

小森淳子（2018）「ニジェール・コンゴ語族における動詞派生形と「受動文」」、『言語文化研究』44号、pp.33-53、大阪大学大学院言語文化研究科（2018年3月発行）

〈口頭発表・講演・学会報告〉

「ニジェール・コンゴ諸言語の動詞の態（Voice）に関する類型論的考察」（日本アフリカ学会第54回学術大会 2017.5.20 信州大学教育学部）

〈研究助成〉

科学研究費補助金 基盤研究（C）「ニジェール・コンゴ語族における動詞構造の形態・統語論比較研究」（研究代表者、H28-30年度）

[その他の活動]

〈管理運営〉 人権問題委員会全学委員、スワヒリ語部会主任／学科目代表

ISACK Zainabu Kassu, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Special Seminar in Swahili, Structures of African Languages IIa

<Foreign language classes> Seminar of Swahili Literature, Swahili 12, Swahili IIa, African Culture, Swahili 4, Swahili 5, Swahili 13.

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Applied Linguistics, Semantics, Sociolinguistics, Syntax, African Culture.

[Research achievements]

<Papers> “Makuzi na Hatua za Maisha” in *Frontier of Foreign Language Education*, 2018, 105-118

【ヨーロッパ I 講座】

〔ロシア語〕

林田 理恵 (HAYASHIDA Rie) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 広域対照言語論, 広域対照言語論特別研究

〈共通教育担当科目〉 ロシア語中級, ロシア語上級

〈学部教育担当科目〉 ロシア語専攻語実習, ロシア語学講義, ロシア語専攻語演習, ロシア学入門

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ロシア語状況意味論, ロシア語教育・学習理論

〈所属学会〉 JSSEES (Japanese Society for Slavic and East European Studies), 日本ロシア語教育研究会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・『地域に貢献するロシア語人材育成につながる教育課程編成を展望した, ロシア語学習指導案・評価法確立のための基盤研究』文部科学省平成 29 年度外国語教育強化地域拠点事業ロシア事業成果最終報告書, 2018 年 3 月.

〈論文〉

- ・“В каком направлении должно двигаться сегодня преподавание русского языка в Японии?” *Русский язык за рубежом, Специальный выпуск "Русистика Японии"*. ロシア・モスクワ. 2016 年 12 月.
- ・「ロシア語学習者コーパス構築の可能性と意義」『言語文化研究』43 号, 2017 年 3 月.
- ・「どこへ向かうロシア語教育? 国際語としてのロシア語教育の提案」『ロシア語教育研究』, 2017 年 9 月.
- ・「外国語教育強化地域拠点事業 ロシア語班 — 1 年間の軌跡」文部科学省平成 29 年度外国語教育強化地域拠点事業ロシア事業成果最終報告書, 2018 年 3 月.
- ・「学習者言語を探る — 科研費プロジェクト「日本語母語学習者データに基づくロシア語学習者コーパス構築の基盤研究」2017 年度研究成果報告総括 —」科学研究費補助金基盤研究 (C) 2017 年度研究成果報告, <http://kyoiku-ru.org/teaching/corpus/>, 2018 年 3 月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「学習者言語の傾向をさぐるーロシア語学習者コーパス構築の可能性と意義ー」日本ロシア語教育研究会東日本地区 2017 年度研究例会，於：上智大学，2017 年 6 月。
- ・「ロシア語の学びとは？」高校ロシア語教師研修 2017，於：大学セミナーハウス（八王子），2017 年 9 月。
- ・「平成 29 年度外国語教育強化地域拠点事業 高等学校ロシア語研究校・研究授業発表総括」2017 年度ロシア語教育研究集会，於：大阪大学，2017 年 12 月。
- ・「高等学校ロシア語研究校ー取り組みの主眼点・展望ー」JACTFL 第 6 回外国語教育シンポジウム於：上智大学，2018 年 3 月。

〈研究助成〉

- ・文部科学省科学研究費補助金：「日本語母語学習者データに基づくロシア語学習者コーパス構築の基盤研究」2017 年度～2019 年度（基盤研究 (C)）
- ・受託研究：文部科学省平成 29 年度外国語教育強化地域拠点事業「地域に貢献するロシア語人材育成につながる教育課程編成を展望した，ロシア語学習指導案・評価法確立のための基盤研究」（2017 年 4 月～2018 年 3 月）

[その他の活動]

〈管理運営〉外国語学部ロシア語学科目代表（2017 年 4 月～2018 年 3 月），全学教育推進機構企画開発部全部門委員，ハラスメント相談室全学相談員

〈学会活動〉日本ロシア語教育研究会編集委員（～2017 年 12 月），日本ロシア語教育研究会会計監査（2017 年 12 月～），ロシア語教育研究集会 2017「平成 29 年度外国語教育強化地域拠点事業・高等学校ロシア語研究校研究授業発表会」企画・組織・運営（於：大阪大学，2017 年 12 月）

〈社会貢献活動〉高校ロシア語教師研修企画・コーディネート（国際文化フォーラム主催，於：大学セミナーハウス（八王子），2017 年 9 月），NHK 講座『まいにちロシア語（ラジオ第 2）』『大人のためのロシア語 入門編』講師（2017 年 10 月～2018 年 3 月），「高等学校ロシア語研究校・研究授業公開見学会・合評会」企画・組織・運営（於：北海道札幌丘珠高等学校，青森県立青森南高等学校，2018 年 1 月 23 日～25 日）

上原 順一 (UEHARA Junichi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語構造論

〈共通教育担当科目〉国際コミュニケーション演習（ロシア語）、ロシア語初級選択

〈学部教育担当科目〉ロシア語、ロシア学入門、ロシア語学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉ロシア語の語彙論、語形成論、学習者向け教材など

〈所属学会〉日本ロシア文学会、日本ロシア文学会関西支部、大阪大学言語社会学会、日本ロシア語教育研究会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・『大阪大学世界言語研究センター 世界の言語シリーズ 5 ロシア語 初版第 2 刷』、大阪大学出版会 (2017 年 2 月)

〈論文〉

- ・「ロシア語の語彙連想とグラフの連結成分について」『言語文化研究』第 44 号, pp. 19-31 (2018 年 3 月)

〈書評・論評・紹介〉

- ・「ロシア語研究最前線」『生産と技術』, Vol.69, No.3 (2017 年 7 月)

[その他の活動]

〈管理運営〉 部局情報セキュリティ委員会 (外国語学部、言語文化研究科)、ODINS 部局担当 (外国語学部)、コンテンツ管理委員会 (言社・日日専攻)、ネットワーク管理委員会 (言社・日日専攻)、情報化推進会議 (外国語学部)、未来共生イノベーター博士課程プログラム

(言語社会専攻から)

〈社会貢献活動〉

咲耶会 (大阪外国語大学 大阪大学外国語学部 同窓会) 幹事、大阪大学言語社会学会 理事

藤原 克美 (FUJIWARA Katsumi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ言語社会構造論 I

〈共通教育担当科目〉 ヨーロッパ・アメリカ言語文化研究入門、中級ロシア語

〈学部教育担当科目〉 専攻語実習 (ロシア語 13)、ロシア政治・経済講義 I、ロシア政治・経済演習 II

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ロシア経済論、ソビエト経済論

〈所属学会〉 比較経済体制学会、日本比較経営学会、ロシア・東欧学会、経済理論学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・“Industry Cluster Policy During Economic Crisis”, *Journal of Northeast Asia Development*, Incheon National University, Vol.18, Dec. 2016, pp.29-42.
- ・「ソビエト・ジーンズの誕生」『立命館経済学』立命館大学、第 65 巻第 5 号、228-249 頁、2017 年 3 月。
- ・「グローバル化下のロシア・ファッション産業」『比較経済研究』比較経済体制学会、第 54 巻第 2 号、1-14 頁、2017 年 6 月。

- ・「ロシアにおけるファッション産業の現状」『ロシア NIS 調査月報』ロシア NIS 貿易会、第 63 巻第 2 号、23-33 頁、2018 年 2 月。
〈翻訳・翻訳書〉
- ・A.P.ゴリユノフ著 藤原克美訳「ロシア経済危機の空間的諸側面」『極東ロシアと日本—政治・経済・社会・文化—第 32 回日ロ極東学術シンポジウムの記録』日ロ極東学術交流会、51-58 頁、2017 年 8 月。
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・ Industry Cluster Policy During Economic Crisis: Case study of Russian textile industry, “Asia Economic Community Forum”, Inchon, Nov. 2016.
- ・ Russian Industry Cluster: Case study of textile industry, “International Conference on Social Issues and Economic Institutions in Russia”, Kyoto: Kyoto University, Mar. 2017.
- ・ the Birth of Soviet Jeans, The Second World Congress of Comparative Economics, St. Petersburg, June 2017.
- ・ 消費から見るソビエト市民の格差、比較経済体制研究会、2017 年 7 月、京都大学
- ・ Shrinks of the Russian Colonial Space in Harbin under 1930s: from the Minutes of the Churin Company, “Migration Bridges in Eurasia: Political, Socio-economic, Demographic and Historical Perspectives For NorthEast Asia”, Sendai: Tohoku University, Sept. 2017.
- ・ Differentials and Egalitarianism: From the Case Study of Daily Life in the 1960-1970s, “The Future of Transition Economics: Emerging Multinationals and Historical Perspective”, Kyoto International Conference and EACES - Asia Workshop, Kyoto: Kyoto University, Dec. 2017.
〈研究助成〉
- ・ 科学研究費補助金 (C) 「不足のなかの「消費社会」: ソビエトにおける消費財市場の発展」
(平成 27 年度～平成 30 年度)
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉 国際交流委員会委員長、紀要委員
- 〈学会活動〉 日本比較経営学会理事 (2014 年 5 月～2017 年 4 月)、比較経済体制学会幹事 (2015 年 11 月～)、ロシア・東欧学会理事 (事務局会計担当) (2015 年 10 月～)
- 〈社会貢献活動〉 阪神シニアカレッジ講師 (2017 年)、国際理解ゼミナール講師 (2018 年)、関西ロシア語コンクール審査員 (2016 年、2017 年)

横井 幸子 (YOKOI Sachiko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ言語社会動態論、広域対照言語論特別研究

〈共通教育担当科目〉 ロシア語中級、欧米の文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉 ロシア語、ロシア語学演習、教科教育法 (ロシア語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ロシア語・第2言語教育、言語教育政策、教師教育

〈所属学会〉 日本ロシア語教育研究会、日本ロシア文学会、アメリカ応用言語学学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・横井幸子 (2018). 「プロジェクト型授業に見られる「学び」の評価について：客観的評価とCAF分析. 平成29年度文部科学省外国語教育強化地域拠点事業事業成果最終報告書, 61-66.
- ・泉文明, 長江春子, 横井幸子(2017). 「日露言語教育交流小考」『国際文化研究』(龍谷大学国際文化学会) 第21号, 3-15
- ・林香苗&横井幸子(2017). 「ロシア語の授業における教授言語と教師の言語アイデンティティについて：ネイティブ・ノンネイティブの枠組みを超えて」『ロシア語教育研究』第8号, 15-31.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・横井幸子(2017年3月22日). 「日本の言語教育における多言語・多文化共生のあり方～現実と今後の展望～」. シベリア連邦大学日本センター, ロシア連邦クラスノヤルスク市.
- ・横井幸子(2017年3月20日). 「日本の言語教育における多言語・多文化共生のあり方～現実と今後の展望～」. トムスク国立教育大学外国語学部, ロシア連邦トムスク市.
- ・Yokoi, S. (2017, March). Multilingualism and multiculturalism in language education in Japan: Realities and perspectives, Invited lecture, Novosibirsk State University, Novosibirsk: Russia.
- ・横井幸子 (2017年3月19日). Использование аутентичных текстов на уроках японского языка: Как стимулируют навыки мышления учащихся? [生のテキストを活用した授業作り～思考を促す活動をデザインする～]. 日本語教育シンポジウム, 国際交流基金主催, ロシア連邦ノヴォシビルスク市.
- ・横井幸子&林香苗 (2017年7月8日). 「ロシア語の授業における教授言語とネイティブ対ノンネイティブの枠組みについて：あるロシア語教員の場合」. 日本ロシア語教育研究会 西日本例会, 大阪大学.
- ・横井幸子 (2018年3月11日). 日本の高校のプロジェクト型授業における「学び」の評価とロシア語習得について：客観的評価(TRKI)とCAF分析. 第6回外国語教育シンポジウム, 日本外国語教育推進機構(JACTFL)

〈研究助成〉

- ・文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 「日本のロシア語教育のための内容重視型授業のデザイン:第2言語習得過程をふまえて」2017年度～2010年度.

[その他の活動]

〈学会活動〉 ロシア語教育研究会代表(2017年12月～)

[ハンガリー語]

早稲田 みか (WASEDA Mika) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語構造論 IIab

〈学部教育担当科目〉ハンガリー語 1, 11, IIab, ハンガリー語学演習 I, ハンガリー語学講義 I

[研究活動]

〈研究テーマ〉ハンガリー語学

〈所属学会〉日本ウラル学会、国際ハンガリー学会、日本言語学会

[研究業績]

〈共著〉

- ・羽場久美子編『ハンガリーを知るための 60 章 (第 2 版)』明石書店、2018

〈論文〉

- ・ Grammaticalization and Activation of Hungarian Verbal Prefixes, *Uralica*, No.17. 65-77, 2018
- ・ Mi a különbség a „Megjött a tavasz” és „Eljött a tavasz” között?, *Hungarológiai Évkönyv* 18-1. 94-99. 2017
- ・「ハンガリーのノーベル賞作家ケルテース・イムレをめぐる論争」『アリーナ』20 号、505-510、風媒社、2017
- ・「それも言語学者の仕事なの？」月刊『みんぱく』2017 年 8 月号 p.20

〈研究助成〉

- ・科学研究費「ハンガリー語動詞接頭辞の多義構造にみられる文法化と活性化」

[その他の活動]

〈学会活動〉日本ウラル学会理事

〈社会貢献活動〉関西ハンガリー友好協会理事、愛知県ハンガリー友好協会理事

岡本 真理 (OKAMOTO Mari) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会動態論、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説

〈学部教育担当科目〉ハンガリー語 3, ハンガリー語 4, ハンガリー語 1 3, ハンガリー文化講義 I, ハンガリー語学演習 III, 特別外国語ハンガリー語

[研究活動]

〈研究テーマ〉ハンガリー語社会論 (近代民族語運動および文学運動)

〈所属学会〉日本ウラル学会、大阪大学言語社会学会、ハンガリー学会、国際ハンガリー学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・(単著)「1848 年革命期ハンガリーの政治喜劇」『言語文化研究』第 44 号, pp.263-281.2018

年3月。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・(口頭発表)「1848年革命期ハンガリーの政治喜劇」日本ウラル学会第44回大会, 2017年7月。

〈研究助成〉

科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号15K02413「国家変容と国民形成運動に関する動態的研究: 近代ハンガリーにおける「民衆」

[その他の活動]

〈管理運営〉

言語文化研究科: 男女協働推進センター委員

外国語学部: なんでも相談室室長, 学生支援委員会委員

その他: 箕面地区過半数代表

〈学会活動〉 日本ウラル学会幹事, 国際ハンガリー学会理事

〈社会貢献活動〉 科学研究費補助金審査委員

[ドイツ語]

山元 孝郎(YAMAMOTO Atsuro) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ドイツ語圏文化概論、ドイツ語圏文化講義

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉 18世紀・19世紀のドイツ文学

〈所属学会〉 日本独文学会

高田 珠樹 (TAKADA Tamaki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ比較文化動態論(A)・(B)、ヨーロッパ・アメリカ言語社会論 特別研究 A・B

〈学部教育担当科目〉 ドイツ語 12, A・B、ドイツ語圏現代社会演習Ia・b、ドイツ語VIIa・b(B)、ドイツ語圏現代社会演習IIIa・b(A)

〈共通教育担当科目〉 地域言語文化演習 (ドイツ語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ハイデガーの世界概念とスローターダイクの球体概念の比較研究

〈所属学会〉 日本哲学会、関西哲学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「カントとハイデガー 心の闇を前にして」、牧野英二編『新・カント読本』所収、法政大学出版社、2018年2月
- ・「ヒューマニズムの残光の中で」、現代思想臨時増刊号（ハイデガー特集）所収、青土社、2018年1月
- ・「球体としての世界」、『生産と技術』、第70巻第1号、所収、生産技術振興協会編、2018年1月
- ・「スローターダイクの球体論から見た暴力と芸術」、エコ美学&科学国際研究センター、2016年度研究成果報告集、2017年3月
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・『存在と時間』——もう一つの筋書き』、『存在と時間』90周年シンポジウム、ハイデガー研究会主催、2017年11月25日、青山学院大学青山キャンパス
(https://docs.wixstatic.com/ugd/4063c8_c574a3a2634a4da693d3617b2b4ceead.pdf)

進藤 修一 (SHINDO Shuichi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会動態論 IIIA/B、ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究 A/B、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説

〈共通教育担当科目〉欧米の文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉ドイツ語 2、ドイツ語圏現代社会演習 IIa/b、ドイツ語圏現代社会演習 IIIa/b(B)、ドイツ語圏文化演習 Va/b、ドイツ語 LL 中級（兼修語学）

[研究活動]

〈研究テーマ〉近現代ドイツ史、教育社会史、移民研究（教育と移民）

〈所属学会〉日本西洋史学会、史学会、ドイツ現代史学会、大阪大学言語社会学会、大阪大学ドイツ文学会、現代史研究会

[その他の活動]

〈管理運営〉大阪大学副理事（教育室筆頭室員）、全学教育推進機構 学部共通教育部門高大接続オフィス長、キャリア形成教育検討 WG 主査、大阪大学とカリフォルニア大学との学術交流推進室運営委員会委員、大阪大学アーカイブズ大学史資料部門兼任教員

〈学会活動〉大阪大学言語社会学会理事、同編集委員

〈社会貢献活動〉京都府立鳥羽高校スーパーグローバルハイスクール運営指導委員

中川 裕之 (NAKAGAWA Hiroyuki) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~nkg/naka.htm>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究 A・B、ヨーロッパ言語構造論 VIIA・B、広域対照言語論 IIIA・B、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説（リレー

講義)

〈共通教育担当科目〉 地域言語文化演習

〈学部教育担当科目〉 ドイツ語 1 1 (A), ドイツ語 1 1 (B), ドイツ語圏文化演習Ia, ドイツ語圏文化演習Ib, ドイツ語圏文化講義Ia, ドイツ語圏専門文献演習Ib, ドイツ語初級 a・b (B)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ドイツ語コーパス言語学, 日独語対照研究, 語用論, 談話分析, 機能文法, スイス地域研究, 外国語教育

〈所属学会〉 日本独文学会, ドイツ語教育部会, スイス文学会, スイス史研究会, 多言語社会研究会, 多言語化現象研究会

[研究業績]

〈一般著書〉

- ・多言語グラウビュンデンのレト・ロマン語方言の書きことば成立の歴史 識字教育につながる聖書翻訳とその文学的開花例としての抒情詩, 『スイス文学・芸術論集 小さな国の多様な世界』, pp. 57-88, スイス文学会編, 鳥影社, ISBN 978-4-86265-612-4, 2017年6月

〈編著書〉

- ・言語社会共同研究プロジェクト 2016 『ドイツ語をめぐる言語社会研究 4』, 大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻, 2017年3月
- ・言語社会共同研究プロジェクト 2017 『ドイツ語をめぐる言語社会研究 5』, 大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻, 2018年3月

〈論文〉

- ・外国語教育におけるドイッチュラントフンクの有用性, 『外国語教育のフロンティア 1』, pp. 135-147, 2018年3月

〈翻訳〉

- ・イゾ・カマルティン「刑事裁判の文化史」, 言語社会共同研究プロジェクト 2016 『ドイツ語をめぐる言語社会研究 4』, pp. 25-35, 2017年3月
- ・イゾ・カマルティン「小文学」, 言語社会共同研究プロジェクト 2016 『ドイツ語をめぐる言語社会研究 4』, pp. 37-47, 2017年3月
- ・イゾ・カマルティン「自分のもの、他者のもの」, 言語社会共同研究プロジェクト 2017 『ドイツ語をめぐる言語社会研究 5』, pp. 27-34, 2018年3月

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金(基盤研究(C))「スイスにおけるレト・ロマン語の社会言語学的・異文化コミュニケーション的研究」(研究課題番号:15K02750), 研究代表者
- ・大阪大学大学院言語社会専攻及び日本語・日本文化専攻研究企画推進委員会研究推進経費特別派遣研究支援
- ・大阪大学大学院言語社会専攻及び日本語・日本文化専攻研究企画推進委員会研究推進経費

研究成果刊行助成

〈報道〉

- ・ «Der japanische Professor mit dem Faible für Rumantsch» von Fadrina Hofmann, *Südschweiz* (新聞、スイス), 2016年12月
- ・ «Und wie das funktioniert!» von Angelika Overath, *Frankfurter Allgemeine Zeitung* (新聞、ドイツ), 2016年12月
- ・ «Brooklyn-Glion: Nagin viadi memia lung per emprennder rumantsch» von Gion Hosang, *Radiotelevisiun Svizra Rumantscha* (テレビ、スイス), 2017年7月

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化研究科言語社会専攻図書委員会委員長、言語文化研究科言語社会専攻教員人事業績審査委員

黒谷 茂宏 (KOKUTANI Shigehiro) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉広域対照言語論 IV A/B、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説 (リレー講義)

〈共通教育担当科目〉ドイツ語中級

〈学部教育担当科目〉ドイツ語圏専門文献演習 II a/b、ドイツ語圏文化演習 II a/b、ドイツ語 VI a/b、ドイツ語 1(A)、ドイツ語 1(B)

[研究活動]

〈研究テーマ〉言語学、ドイツ語学

〈所属学会〉Internationale Vereinigung für Germanistik、Deutsche Gesellschaft für Kognitive Linguistik、日本フランス語学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「付加語」の概念の再構成 (2): 「名詞なし名詞句」と性の二重性 (言語社会共同研究プロジェクト 2017: ドイツ語をめぐる言語社会研究 5、大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻、1-16)。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Attribute (2): Nominalphrase ohne Substantiv und DaF-Unterricht (52. Linguistisches Kolloquium, Erlangen, 21-23.09.2017).

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 海外報告 (1): 51. Linguistisches Kolloquium in Vilnius (言語社会共同研究プロジェクト 2016: ドイツ語をめぐる言語社会研究 4、大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻、49-50)。
- ・ 海外報告 (2): 7. internationale Konferenz der Deutschen Gesellschaft für Kognitive Linguistik in Essen (言語社会共同研究プロジェクト 2016: ドイツ語をめぐる言語社会研究 4、大阪大

学大学院言語文化研究科言語社会専攻、51-52)。

- ・海外報告：52. Linguistisches Kolloquium in Erlangen (言語社会共同研究プロジェクト 2017：ドイツ語をめぐる言語社会研究5、大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻、35-36)。

[その他の活動]

〈管理運営〉大学院入試委員、安全衛生委員

安田 麗 (YASUDA Rei) 助教

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉国際教養2 (ドイツ語)

〈学部教育担当科目〉ドイツ語VII、ドイツ語圏文化講義、専門文献演習、ドイツ語初級

[研究活動]

〈研究テーマ〉音声学、ドイツ語教育、

〈所属学会〉日本音声学、日本独文学会、ドイツ語教育部会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「語末閉鎖子音の発音 -ロシア語・ドイツ語・英語を対象にした生成実験の報告-」『音声言語の研究 11』大阪大学大学院言語文化研究科, pp.95-104.

[その他の活動]

〈学会活動〉日本音声学音声学普及委員会委員

【ヨーロッパⅡ講座】

[スウェーデン語]

高橋 美恵子 (TAKAHASHI Mieko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究、ヨーロッパ言語構造論

〈学部教育担当科目〉スウェーデン語実習、スウェーデン現代社会特別演習、北欧現代社会概説、北欧文化演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉ワーク・ファミリー・バランスの日本・EU比較研究、比較の視点からみたスウェーデンの家族・ライフスタイルの多様性とジェンダー

〈所属学会〉日本社会学会、日本家族社会学会、関西社会学会、International Sociological Association、社会政策学会、日本人口学会

[研究業績]

〈共著〉

- ・『北欧文化辞典』北欧文化協会／バルト＝スカンディナヴィア研究会, 丸善出版, 2017年10月.

〈論文〉

- ・高橋美恵子「スウェーデン駐在経験者の働き方と家族生活—子育て世代の日本男性の意識と実践の変化」、『IDUN—北欧研究—』Vol.22, 大阪大学言語文化研究科言語社会専攻デンマーク語・スウェーデン語研究室, pp.223-251, 2017年3月.

〈報告書〉

- ・高橋美恵子「第1章 スウェーデン」, 『諸外国における育児休業制度等、仕事と育児の両立支援にかかる諸政策—スウェーデン、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカ、韓国—』JILPT資料

シリーズ NO.197, 独立行政法人 労働政策研究・研修機構, pp.17-33, 2018年3月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・高橋美恵子「豊かな生き方と働き方—北欧・スウェーデンを参考に」, 平成28年度大阪大学公開講座「若さの未来」, 2016年12月2日.
- ・Mieko Takahashi “A Comparative Study of Child-rearing Environment and Childbearing Intentions: From a Capability Approach Perspective”, Session: Comparative Study on people’s perception of fertility decline and its relationship with the family and labor market policies, 日本人口学会第69回大会(東北大学), 2017年6月11日.
- ・高橋美恵子「スウェーデンの女性たち—仕事も家庭も選択できる社会での生き方と働き方—」, 高槻市人権・男女共同参画課講座, 2017年8月31日.
- ・高橋美恵子「北欧のくらしと「自分を持つ」生き方—スウェーデン女性のワーク・ライフ・バランス—」, 西宮市男女共同参画センターウエーブ 2017年度市民企画講座, 2017年12月2日.
- ・高橋美恵子「北欧の自由なライフスタイル—スウェーデンの日常」, 『国際女性デー 記念講演会』平成29年度芦屋市男女共同参画センター事業, 2018年3月10日.

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金・基盤研究 (B) 一般「多様性社会のワーク・ファミリー・バランス—スウェーデン・オランダ・ドイツの実践」2016年度～2020年度 (研究代表者)
- ・科学研究費補助金・基盤研究 (B) 一般「非典型時間帯就労に着目したワーク・ライフ・バランスの国際比較研究」2017年度～2019年度 (研究分担者)

〈調査活動〉

- ・Technical Exchange on Work-Life Balance, International Labour Office, Geneva 2017年5月29—30日.
- ・多様性社会のワーク・ファミリー・バランス研究—スウェーデン調査 2017年9月7日～26日.

[その他の活動]

〈管理運営〉 計画評価オフィス員、研究企画推進委員

〈学会活動〉

日本家族社会学会編集委員

〈社会貢献活動〉

独立行政法人労働政策研究・研修機構 平成 29 年度調査担当.

古谷 大輔 (FURUYA Daisuke) 准教授

(個人) <http://gustav.air-nifty.com> (科研) <http://conglomerate.labos.ac>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究、ヨーロッパ言語構造論、ヨーロッパ言語社会動態論

〈学部教育担当科目〉北欧史概説、スウェーデン史特別演習、デンマーク史特別演習、北欧文化演習、スウェーデン語、欧米の文化と社会を知る

[研究活動]

〈研究テーマ〉北欧近世史、歴史的ヨーロッパにおける主権概念の批判的再構築、歴史的ヨーロッパにおける複合政体の比較研究.

〈所属学会〉日本西洋史学会、バルト・スカンディナヴィア研究会、大阪大学言語社会学会、スウェーデン歴史協会 (Svenska Historiska Föreningen)

[研究業績]

〈共著〉

・『北欧文化辞典』北欧文化協会／バルト＝スカンディナヴィア研究会, 丸善出版, 2017 年 10 月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ Daisuke Furuya, "Intermediators who connected between Europe and Asia: "Swedish" experiences in the early modern East Asia", Global Nodes, Networks, Orders: Three Global History Workshops on Transformative Connectivity, 21th April 2017, University of Leiden.

・ 古谷大輔、「近世／近代の時代区分をめぐるミッシングリンクーローカルな問題とグローバルな問題ー」、シンポジウム『西洋史における時代区分』、2017 年度西洋史学読書会大会、2017 年 11 月 3 日、京都大学.

・ 古谷大輔、「近世の北欧国家」、社会科部会歴史分科会高大連携講座『近世のヨーロッパをどのように学ぶか』、2017 年度神奈川県高等学校教科研究会、2017 年 8 月 1 日、横浜市立横浜商業高校.

・ 古谷大輔、「大阪大学外国語学部の外国学～地域への眼差しと言葉の重み」、大阪大学 21 世紀懐徳堂シンポジウム第 3 回『大阪大学外国語学部がめざす外国学～言葉とともに、箕面とともに』、2018 年 3 月 1 日、箕面市立メイプルホール.

〈研究助成〉

・ 基盤研究 (A) 「歴史的ヨーロッパにおける主権概念の批判的再構築」、平成 29～32 年度科学研究費補助金、研究代表者.

・基盤研究 (A) 「ヨーロッパ東部境界地域における他者概念の形成と空間的再構成」、平成 27～30 年度科学研究費補助金、研究分担者.

・基盤研究 (B) 「ジャコバン主義の再検討: 「王のいる共和政」の国際比較研究」、平成 28～31 年度科学研究費補助金、研究分担者.

[その他の活動]

〈管理運営〉大阪大学適塾記念センターオランダ学研究部門兼任教員、大阪大学先導的学際研究機構グローバルヒストリー研究部門部門員、大阪大学 21 世紀懐徳堂兼任教員、大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻研究企画推進委員会委員.

〈学会活動〉Svenska Historiska Foereningen Internationella redaktionen (スウェーデン歴史協会国際編集委員)、バルト・スカンディナヴィア研究会関西支部事務局、大阪大学言語社会学会理事、日本西洋史学会『西洋史学』編集幹事.

〈社会貢献活動〉大阪大学 21 世紀懐徳堂シンポジウムコーディネーター.

・「まちのラジオ 大阪大学社学連携事業」, 「まちのラジオ 大阪大学社学連携事業」, 2018 年 3 月.

當野 能之 (TOHNO Takayuki) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語構造論 V A、ヨーロッパ言語構造論 V B

〈共通教育担当科目〉特別外国語演習 (スウェーデン語) I、特別外国語演習 (スウェーデン語) II

〈学部教育担当科目〉スウェーデン語 2、スウェーデン語 3、スウェーデン語 12、スウェーデン語 Ia、スウェーデン語 Ib、スウェーデン語学特別演習 a、スウェーデン語学特別演習 b、教科教育法 (スウェーデン語) a、教科教育法 (スウェーデン語) b

[研究活動]

〈研究テーマ〉スウェーデン語文法、不変化詞動詞構文

〈所属学会〉日本言語学会、関西言語学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈論文〉

・當野能之・清水育男 (2017) 『『世界の言語シリーズ 12 スウェーデン語』語彙集』, IDUN - 北欧研究 - 第 22 号, 127-154

・當野能之 (2018) 「現代スウェーデン語における疑似主語構文の分析」, 神戸大学言語学論叢, 第 11 号, 87-99

〈研究助成〉

・科学研究費補助金 基盤(C) 「微視的類型論によるパラレル・コーパスを利用したバルト海周辺諸語の不定人称文の研究」(研究代表者: 名古屋大学 佐久間 淳一) 平成 29 年～平成 31 年, 研究分担者として参加

[その他の活動]

〈管理運営〉 教務委員会委員

〈学会活動〉 関西言語学会編集委員 (2016年4月～), ICLC (国際認知言語学会) 準備委員
(宿泊担当) (2018年1月～)

LARSSON Ulf, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes>

Conversation courses: standard + advanced, 1 class each per semester (3th + 4th year); Writing course, 1 class per semester (3th + 4th year), Master course in conversation, 1 class per semester

<General Education classes>

Swedish major, 1th year, Swedish major, 2th year, 1 class each per semester

[Academic activities]

<Research Fields and interests>

Culinary and sensory language, lexical semantics, cognitive semantics, literary stylistics, Swedish grammar, text analysis, grammar pedagogics, narratology

[Other activities]

<Admin activities>

Preparation work for the establishment of an exchange agreement between Osaka University and Stockholm University

[デンマーク語]

新谷 俊裕 (SHINTANI Toshihiro) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究 A, B, ヨーロッパ言語構造論 IIIA, B, ヨーロッパ言語構造論 IVA

〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習 (デンマーク語) I, II

〈学部教育担当科目〉 ←デンマーク語 2, デンマーク語 3, デンマーク語 1 1, デンマーク語 Ia, b, デンマーク語特別演習 a, b, 教科教育法 (デンマーク語) a, b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 デンマーク語文法研究 (主に副詞の心態詞的用法)

〈所属学会〉 日本言語学会, 北欧語学会 (コペンハーゲン)

[その他の活動]

〈管理運営〉 ヨーロッパII講座代表, デンマーク語部会主任, デンマーク語学科目代表, 外国語学部評価委員会委員長

田邊 欧 (TANABE Uta) 教授

<http://riefive6.wix.com/utatanabe>

1 [教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語文化表象論II、ヨーロッパ言語構造論IV、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究、世界文学・文化論

〈学部教育担当科目〉デンマーク語 1、デンマーク語 12、デンマーク語IIa (B)、北欧文学概論、北欧文学特別演習I、北欧文学特別演習II

[研究活動]

〈研究テーマ〉近・現代北欧文学（ブリクセン研究、アンデルセン研究、現代北欧モダニズム文学）

〈所属学会〉日本比較文学会、北ヨーロッパ学会、国際アンデルセン学会、エーディット・スーデルグラン学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈小論〉

- ・田辺欧「魔王」のルーツを訪ねて～デンマーク古歌謡とゲーテの出会い」、『第8回大阪大学 x 大阪音楽大学ジョイント公演・パンフレット「あなたがみるもの私にみえるもの こどもの世界、おとなの世界」(2016.11)。

〈翻訳〉

- ・田辺欧「まぼろしの馬」Isak Dinesen(Karen Blixen)著 *Spørgelseshestene*、『IDUN—北欧研究』22号、pp.175-193、(2017.3)
- ・田辺欧 「デンマークが世界に誇るストーリーテラー～カーアン・ブリクセンをめぐる16章～」デンマーク・日本外交樹立150周年記念ブリクセン展 (Karen Blixen 博物館主催) 全122頁 (図版を含む) (2017.10)

[その他の活動]

〈管理運営〉教務委員会委員(学部・院:~2017.3)、全学・教育実習等専門部会委員(~2017.3)、なんでも相談室室員(~2017.3)、全学・外国学図書館運営委員会委員(~2017.3)、図書資料選定小委員会委員(~2017.3)、評価委員会委員(2017.4~)、大学院入試委員会委員(2017.4~)

〈学会活動〉北ヨーロッパ学会・理事

〈学内講演・講義活動〉

- ・「あなたがみるもの私にみえるもの こどもの世界、おとなの世界でのトーク」、第8回大阪大学・大阪音楽大学ジョイント企画(大阪大学21世紀懐徳堂・大阪音楽大学・豊中市主催)(2016.11.23)
- ・「児童演劇のフロンティア・アンデルセン童話が生まれた国デンマークに学ぶ」(デンマーク・日本外国関係樹立150周年記念社会学連携プロジェクト:大阪大学21世紀懐徳堂・大阪大学言語文化研究科・大阪大学外国語学部共催)(2017.11.3)
- ・「あなたの知らないアンデルセン～『マッチ売りの少女』って誰のこと?」(大阪大学x大

阪ガスアカデミックッキング Vol.64) (2017.12.19)

〈社会貢献活動〉

- ・デンマーク・日本外国関係樹立 150 周年記念社会学連携プロジェクトクラスター構成員 (2017)
- ・神戸女学院大学外部評価委員 (2015~2018)
- ・大阪 YWCA : 子どもと子どもの本の講座「児童文学を楽しむ特別講座：現代に息づく北欧神話(2)」講師 (2017.3)
- ・大阪 YWCA : 子どもと子どもの本の講座「児童文学を楽しむ特別講座：子どものためのアンデルセン『人魚姫』・大人のための『人魚姫』～アンデルセン『人魚姫』を読み直す」講師 (2018.3)
- ・「デンマークのストーリーテラー～カーアン・ブリクセンをめぐる 16 章～」展示会企画 (ブリクセン博物館共催：於・誠光社：2018.3.1~15)
- ・「カーアン・ブリクセンに会う夜 『バベットの晩餐会』上映&トークイベント (於・誠光社：2018.3.3)

石黒 暢 (ISHIGURO Nobu) 准教授

<http://www.hs.ura.osaka-u.ac.jp/ishiguronobu/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会構造論II

〈共通教育担当科目〉欧米の文化と社会を知る (北欧事情概説)

〈学部教育担当科目〉デンマーク語 13、デンマーク語II、デンマーク現代社会特別演習、デンマーク文化講義、北欧現代社会概説 b

[研究活動]

〈研究テーマ〉比較福祉国家論、日本と北欧の高齢者介護論、子ども家庭福祉論

〈所属学会〉日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、社会政策学会、北ヨーロッパ学会、関西社会福祉学会、近畿地域福祉学会、日本介護福祉学会、International Sociological Association

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・『北欧ケアの思想的基盤を掘り起こす』(共著) 2018年2月16日, 大阪大学出版会, 浜渦辰二編. 執筆担当: 第1章「在宅ケアの歴史と現在ーデンマークにおける在宅ケアの歴史的展開」 pp. 25-46.
- ・ *The Routledge Handbook of Social Care Work Around the World* (共著) Jan. 2018, Routledge, Karen Christensen and Doria Pilling (eds.) 執筆担当: "Care robots in Japanese Elderly care: Cultural values in focus", pp. 256-269.
- ・『なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか～子どもの豊かな育ちを保障するために』(共著)

2017年5月31日, ミネルヴァ書房, 泉 千勢編. 執筆担当: 第3章「デンマーク王国—保護者との協働による普遍的な保育サービス」 pp. 103-126.

〈論文〉

- Hildegard Theobald, Marta Szebehely, Yayoi Saito & Nobu Ishiguro, “Marketisation Policies in Different Contexts: Consequences for Home-Care Workers in Germany, Japan and Sweden”, *International Journal of Social Welfare*, 2017: 0 00-00, 2017.
- 「デンマークにおける高齢者介護と福祉用具の給付」, 2017年3月, 『福祉用具の種目の検討等に関わるシステム構築に関する調査研究事業報告書 (厚生労働省・老人保健健康増進等補助事業)』, pp.26-39, 公益財団法人テクノエイド協会.
- 「高齢者介護のガバナンス—デンマークのウェルフェア・テクノロジー施策からの検討」, 2017年3月, 『IDUN—北欧研究—』第22号, pp.195-222, 大阪大学デンマーク語・スウェーデン語研究室.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- Nobu Ishiguro, “Successful Introduction of Welfare Technology in Elderly Care?: A Perspective on Governance”, *The 14th EASP Annual Conference: East Asian Social Policy in a Changing Environment: Comparisons, Visions and Futures*, Nagoya University (Japan), August 2-3, 2017.
- Nobu Ishiguro, “Can technology contribute to good care? Introducing technology into Japanese elderly care”, *The 3rd Transforming Care Conference: Innovation and Sustainability*, Polytechnic in Milan (Italy), June 26-28, 2017.

〈研究助成〉

- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) H.28-32 「福祉ガバナンスと介護労働の変容に関する国際比較研究 (研究代表者: 石黒暢)」 (研究代表者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) H.27-30 「ソーシャルワークの実践理論形成に関する実証的研究: 事例を通じた地域・国際比較研究 (研究代表者: 上野谷加代子)」 (研究分担者)
- 受託研究「デンマークにおける福祉用具の種目に係る調査」, テクノエイド協会 (平成28年度老人保健健康増進等事業「福祉用具の種目の検討等に関わるシステム構築に関する調査研究事業」)

〈調査活動〉

- 介護保険と福祉用具に関する調査 (国内)、2017年12月1日～2018年2月28日
- デンマークの高齢者介護におけるウェルフェア・テクノロジー利用に関する調査 (デンマーク出張)、2017年9月3日～9日
- ドイツとスウェーデンの福祉用具に関する調査 (ドイツ・スウェーデン出張)、2017年3月5日～16日
- デンマークの福祉用具に関する調査 (デンマーク出張)、2017年2月19日～25日
- デンマークの福祉用具に関する調査 (デンマーク出張)、2016年11月6日～12日

・介護保険と福祉用具に関する調査（国内）、2017年12月1日～2018年2月28日

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化研究科言語社会専攻・外国語学部国際交流委員

〈学会活動〉北ヨーロッパ学会常任理事、日本地域福祉学会地方委員、関西社会福祉学会学会誌編集委員

〈社会貢献活動〉大阪府福祉のまちづくり審議会委員、大阪府都市計画審議会委員、大阪府国土利用計画審議会委員、大阪府住宅まちづくり審議会委員、豊中市人権文化のまちづくりをすすめる協議会委員

PALUDAN MUELLER MARTIN, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Danish language classes: pronunciation, writing and conversation from beginners to advanced level>

[Academic activities]

Interests:

<Dialogue structures in modern fiction. Everyday language. National stereotypes.>

【ヨーロッパ・アメリカ I 講座】

[英語]

岡田 新(OKADA Shin) 教授

HP:<http://www.eonet.ne.jp/~shinokadahome>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉イギリス言語社会動態論 現代英米政治外交史特別研究

〈共通教育担当科目〉英語 (Listening)

〈学部教育担当科目〉イギリス文化)特別演習 イギリス文化演習 イギリス文化概論 英語II (英作文)

[研究活動]

〈研究テーマ〉自由党の衰退と労働党の勃興

〈所属学会〉政治学会 大阪大学言語社会学会 大阪大学英米学会

[研究業績]

〈論文〉

「自由党の分裂と労働党—1918年総選挙二人区の戦況」『英米研究』大阪大学英米学会、2018年3月所収

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化研究科副研究科長、言語社会副専攻長(10月まで)

筆頭副研究科長、言語社会専攻長、教育研究評議員(10月より)

〈学会活動〉大阪大学言語社会学会代表理事(10月より)

〈社会貢献活動〉日本国際協力機構 招へい研究員講師、司馬遼太郎記念学術講演会 実行委員

貴志 雅之 (KISHI Masayuki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究 A、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究 B、アメリカ言語文化表象論 II A、アメリカ言語文化表象論 II B

〈学部教育担当科目〉 アメリカ文学・文化特別演習 II a、アメリカ文学・文化特別演習 II b、アメリカ文学・文化演習 II a、アメリカ文学・文化演習 II b、アメリカ文学・文化講義 b、アメリカ文学・文化演習 II a、アメリカ文学・文化演習 II b、アメリカ文学・文化概論 a、アメリカ文学・文化概論 b、英語 1 (C)、英語 2 (C)、英語 1 3、英語 (integrated course) II (上級クラス)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 アメリカ演劇政治文化研究、20-21 世紀アメリカ演劇の政治学研究—1900 年からポスト 9.11、現代アメリカ演劇における歴史表象と文化的アイデンティティの関係

性、アメリカ演劇とクイア・ポリティクス、アメリカ演劇における帝国主義・他者・ポストコロニアリズム

〈所属学会〉 日本アメリカ文学会、日本英文学会、日本アメリカ演劇学会、日本ウィリアム・フォークナー協会、日本マーク・トウェイン協会、The Eugene O'Neill Society (米国)、The American Theatre and Drama Society (米国)、Association for Theatre in Higher Education (米国)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・『アメリカ文学における幸福の追求とその行方』(編著) 386 pp. (平成 30 (2018) 年 2 月 28 日, 金星堂)

担当箇所: 「序 アメリカ、幸福の追求とその行方」 pp. 1-18. 「第十章 タブーを犯した成功者——『山羊——シルヴィアってだれ?』における幸福の追求と破壊」 pp. 193-212. 「あとかき」 pp. 371-373.

〈論文〉

- ・「解剖と越境——パークス劇におけるポストコロニアル・スペクタクルとしての身体」平成 30 (2018) 年 3 月 15 日発行, 『アメリカ演劇 28・29 号』(サム・シェパード特集 II / エスニック・マイノリティ特集), 日本アメリカ演劇学会, pp. 68-87.
- ・「ユージーン・オニール、憐憫のリリシズム——『夜への長い旅路』を巡って」平成 30 (2018) 年 3 月 31 日発行, 『英米研究』(大阪大学英米学会誌) 第 42 号, pp. 93-109.

〈書評・論評・紹介〉

- ・書評「アフリカ系アメリカ人の「サイクル」——ヒル地区の地政学 桑原文子『オーガスト・ウィルソン——アメリカの黒人シェイクスピア』白水社、2014. xxvi+490pp.」平成 29 (2017) 年 1 月 20 日発行、『英文学研究 支部統合号』第 9 巻 (日本英文学会) pp. 213-16.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・フォーラム: 「不寛容な時代の愛——アメリカ文学における抒情の系譜」(個人発表タイトル: 「悲しみと痛み、憐憫のリリズム——夜への長い旅路の果てに」平成 28 (2016) 年 12 月 3 日, 第 60 回日本アメリカ文学会関西支部大会, 於: 京都学園大学 京都太秦キャンパス.
- ・シンポジウム: 「ポスト・コロニアリズム以後の演劇」(個人発表タイトル: 「解剖と越境——Parks 劇におけるポストコロニアル・スペクタクルとしての身体」) 平成 29 (2017) 年 5 月 21 日, 日本英文学会第 89 回全国大会, 於: 静岡大学静岡キャンパス.
- ・シンポジウム: 「劇作する小説家ヘンリー・ジェイムズ——小説と演劇のインターフェイス」(個人発表タイトル: 「ヘンリー・ジェイムズ、劇作の到達点とその真価——The Saloon と The Outcry をめぐって」平成 29 (2017) 年 8 月 30 日, 日本アメリカ演劇学会第 7 回大会, 於: 広島経済大学 立町キャンパス.

〈研究助成〉

- ・科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金 (基盤研究 (C) 平成 24 年度から 28 年度) 研究課題名 20-21 世紀アメリカ演劇の政治学研究—1900 年からポスト 9.1

[その他の活動]

[管理運営] 前期日程試験科目別連絡委員、言語社会専攻及び日本語・日本文化専攻入試委員会委員、

[学会活動] 日本アメリカ演劇学会会長、日本アメリカ文学会編集委員、日本アメリカ文学会関西支部評議員

渡邊 克昭 (WATANABE Katsuaki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉

- ・アメリカ言語文化表象論 IB: 「「人体冷凍術とヒューマン・エンハンスメント—Don DeLillo の新作 Zero K (2016)を読む」
- ・ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究「ポストモダン・アメリカ文化表象研究 II—ドン・デリーロを中心に」
- ・アメリカ言語文化表象論 IA、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究 A: 「トランプ時代に読むフィリップ・ロスの『プロット・アゲインスト・アメリカ』(I)」
- ・アメリカ言語文化表象論 IB、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究 B:

- 「トランプ時代に読むフィリップ・ロスの『プロット・アゲインスト・アメリカ』(II)」
- ・世界文学・文化論 (リレー講義)
 - 〈共通教育担当科目〉
 - ・英語(Reading): The Purple Rose of Cairo
 - 〈学部教育担当科目〉
 - ・英語 13(B): 「映画で学ぶ発信型英語運用能力の育成」
 - ・アメリカ文学・文化概論 b: 「フィクションとしてのアメリカ II—パノラミック・ビュー・オブ・アメリカ」
 - ・アメリカ文学・文化演習I b (B): 「小説の技巧 II」
 - ・アメリカ文学・文化特別演習I b: 「世紀転換期アメリカ再考—E. L. Doctorow の Ragtime (1975)を読む」
 - ・アメリカ文学・文化演習I b (A): 「人体冷凍術とヒューマン・エンハンスメント—Don DeLillo の新作 Zero K (2016)を読む」
 - ・英語 1(B): 「ポール・オースターのエッセイを読む」
 - ・アメリカ文学・文化講義 a: 「ポストモダン・アメリカ文化への誘い—ドン・デリーロ文学を通して」
 - ・アメリカ文学・文化講義 b: 「ポストモダン・アメリカ文化への誘い—ドン・デリーロの『マオ II』研究」
 - ・アメリカ文学・文化演習 Ia: 「アメリカ短編小説・文学理論入門 I」
 - ・アメリカ文学・文化演習 Ib: 「アメリカ短編小説・文学理論入門 II」
 - ・英語 13(A): 「映画で学ぶアクティヴ・コミュニケーション」
 - ・アメリカ文学・文化特別演習 Ia: 「ポール・オースターの『ブルックリン・フォリーズ』(2006)」
 - ・アメリカ文学・文化特別演習 Ib: 「ドン・デリーロの『コズモポリス』(2003)」
- [研究活動]
- 〈研究テーマ〉
- ・ポストモダン・アメリカ文学・文化研究、文学・文化批評理論、アメリカ映像文化表象論
 - ・アメリカ文学におけるヒューマン・エンハンスメントの進化と「幸福の追求」の未来学
 - ・アメリカ的想像力と<死>のアポリア
 - ・ドン・デリーロ、リチャード・パワーズ、ソール・ベロー、マーガレット・アトウッド研究
- 〈所属学会〉日本アメリカ文学会、日本英文学会、アメリカ学会、日本ソール・ベロー協会、日本ヘミングウェイ協会、日本ウィリアム・フォークナー協会、アメリカ演劇学会、大阪大学言語社会学会、日本英文学会関西支部、日本マーク・トウェイン協会、阪大英文学会
- [研究業績]

〈共著〉

- ・『アメリカ文学における幸福の追求とその行方』（共著）貴志雅之編、金星堂、(2018年2月28日発行)、「幸福」のこちら側—リチャード・パワーズの『幸福の遺伝子』に見る横溢と復元力（pp. 352-370.）
- ・『アメリカ文化事典』、アメリカ学会編、丸善出版、(2018年1月20日発行)、第14章「文学」の「小説」の項（pp. 548-549.）

〈論文〉

- ・「ドン・デリーロにおける〈死〉のデザイン—オリエンタルな意匠をめぐって」『AALA Journal』第22号（アジア系アメリカ文学研究会、2016年12月31日発行、pp. 29-55.）

〈書評〉

- ・『アメリカ文学研究』第53号（日本アメリカ文学学会、2017年3月31日発行、pp. 62-68.）
下河辺美知子著『グローバリゼーションと惑星的想像力—恐怖と癒しの修辞学』（みすず書房）

〈講演〉

- ・招待講演「破局と生成のアレンジメント—デリーロ文学における微粒子とメディアの亡霊」、京都大学大学院人間・環境学研究科、(2017年7月14日、京都大学)
- ・特別講演「ドン・デリーロの惑星的想像力の場としての“Convergence”—『ゼロ K』における「ポストヒューマン・ボディー」とアース・アート」、エコクリティシズム研究会第30回大会、(2017年8月5日、サテライトキャンパスひろしま)
- ・基調講演「デリーロ文学における微粒子—『ポイント・オメガ』から『ゼロ K』へ」、並びにコメンテーター、科学研究費・基盤研究(B)「マニフェスト・デスティニーの情動的効果と21世紀惑星的想像力」(2018年2月19日、成蹊大学)

〈口頭発表〉

- ・日本アメリカ文学学会東京支部シンポジウム「現代アメリカ小説における「保守」の諸相」(2016年12月10日、慶應義塾大学) 講師、「生命の保守 / 保守の生命—デリーロの新作における永遠のゼロ」
- ・阪大英文学会シンポジウム講師、「シンポジウム・藤井治彦」、阪大英文学会第50回大会(2017年10月28日、大阪大学)
- ・招待発表「囁き続ける水滴—『ゼロ K』における「器官なき身体」」、日本英文学会関西支部第12回大会(2017年12月17日、京都女子大学)

〈研究助成〉

- ・科研費[基盤研究(C)]による研究「アメリカ文学におけるヒューマン・エンハンスメントの進化と『幸福の追求』の未来学」研究代表者、(2014年4月～)

[その他の活動]

〈学会活動〉

- ・日本アメリカ文学学会代議員

- ・日本アメリカ文学会関西支部長（2017年3月31日まで）、同支部評議員
- ・日本英文学会関西支部評議員
- ・日本ソール・ベロー協会理事
- ・大阪大学言語社会学会理事・編集委員
〈管理運営〉
- ・ヨーロッパ・アメリカ I 講座代表
- ・大阪大学公開講座運営委員会委員
- ・外国語学部入試委員
- ・大阪大学外国語学部英語部会同窓会（EDU）常任幹事

大津 智彦 (OTSU Norihiko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究、イギリス言語文化資源論

〈学部教育担当科目〉英語学特別演習、英語学演習、英語学 I、英語 1、英語 3

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語史、特に統語法の史的变化に関する記述的研究

〈所属学会〉英語コーパス学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「イギリス英語における離接詞 likely の用法 —1600年代から1900年代後半までの変遷—」 『英米研究』第41号（大阪大学英米学会，2017年3月） 学術論文
- ・「近代初期英語における離接詞 likely について —強意副詞による修飾の有無の変遷—」 『英米研究』第42号（大阪大学英米学会，2018年3月） 研究ノート

[その他の活動]

〈管理運営〉大学院（言語社会専攻）・外国語学部教務委員

杉田 米行 (SUGITA Yoneyuki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アメリカ言語社会構造論 IA・B、ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉ヨーロッパ・アメリカ言語文化研究入門、実践英語

〈学部教育担当科目〉英語 2(B)、アメリカ史概論 a・b、アメリカ歴史・政経演習 Ia・b、アメリカ歴史・政経特別演習 IIa・b、アメリカ歴史・政経特別演習 a・b、卒業論文、アメリカ研究入門 a・b、アメリカ研究入門 a・b、アメリカ歴史・政経研究 Ia・b、アメリカ歴史・政経研究 IIa・b

[研究活動]

〈研究テーマ〉日米医療保険史・医療政策史、日米外交・安全保障研究

〈所属学会〉日本国際政治学会, アメリカ学会, 日本アメリカ史学会, 関西アメリカ史研究会, 大阪大学言語社会学会, 政治社会学会、Society for Historians of American Foreign Relations

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・(専門書・単著)Yoneyuki Sugita, *Japan's Shifting Status in the World and the Development of Japan's Health Insurance Systems* (Springer, forthcoming in 2018).
- ・(専門書 編著/翻訳) 杉田米行著「世界における日本の地位と医療保険の変遷, 1920年代～1940年代初期」杉田米行編著『アジア太平洋地域の複眼的分析: 歴史と展望』(東京: 明石書店、近刊)
- ・(専門書・共著) Yoneyuki Sugita, "Egalitarianism in Japanese Sickness Insurance Programs in War and Peace, 1937-1946," in Michael W. Myers and Puck Brecher eds., *Defamiliarizing Japan's Asia-Pacific War* (University of Hawaii Press, forthcoming).
- ・(専門書・共著)Yoneyuki Sugita, "China's Food Safety Problems and Establishment of Dual Economy: A Case of Vegetables," in Victor Teo & SungWon Yoon eds., *Illicit Industries and China's Global Shadow Economy* (Routledge, forthcoming).
- ・(専門書・共著)Yoneyuki Sugita, "The US Pivot to the Asia-Pacific Region and Japan's Responses," in Gauri Khandekar and Bart Gaens, eds., *Japan's Search for Strategic Security Partnerships* (Routledge, December 2017), 47-74.
- ・(E S L) 杉田米行監修/佐藤晶子・山西敏博・竹林修一・奈須健著『ボイス・オブ・アメリカ (VOA) ニュースで学ぶ英語レベル2』(大学教育出版、2017年4月) 148p.
- ・(専門書共著) 杉田米行4章「日本の「抑制された再軍備」の形成過程」西谷真規子編著『国際規範はどう実現されるか 複合化するグローバル・ガバナンスの動態』(京都: ミネルヴァ書房、2017年3月) 138-165.
- ・(専門書・共著) Yoneyuki Sugita, Chapter 6 "The US Pivot to Asia and Japan's Development Cooperation Charter," in André Asplund and Marie Soderberg eds., *Japanese Development Cooperation: The Making of an Aid Architecture Pivoting to Asia* (Routledge, January 2017), 90-103.
- ・(専門書 共著)杉田米行著第IV部 第18章「アメリカの医療改革—オバマケアにみる選択の自由とパブリックオプション」本間正明監修、松浦成昭・跡田直澄・河越正明編『医療と経済』(大阪: 大阪大学出版会, 12/2016) 443-58頁。

〈論文〉

- ・(教材研究)杉田米行「英語基礎固め: 効率的暗唱例文作成方法論-熟語」『外国語教育のフロンティア』1号 (大阪大学、近刊)

〈翻訳・翻訳書〉

- ・(専門書 編著/翻訳) 杉田米行著「世界における日本の地位と医療保険の変遷, 1920年代

～1940年代初期」杉田米行編著『アジア太平洋地域の複眼的分析：歴史と展望』2章、6章、7章、14章翻訳担当（東京：明石書店、近刊）

〈書評・論評・紹介〉

- ・（論説）杉田米行「『オバマケア』成立過程に見られるアメリカ的信条」『生産と技術』Vol. 69, No. 2 (2017年4月)126-128.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Yoneyuki Sugita, "US pivot to Asia and Japan's Development Cooperation Charter," European Institute of Japanese Studies (EJIS) & GRIPS Development Forum Joint Seminar - Can Japanese Development Cooperation Tell us Something about Regional and Global Change?- National Graduate Institute for Policy Studies, Tokyo, 16 March 2017.
- ・ Yoneyuki Sugita, "Three-Way Struggle for Initiative in the Korean Peninsula," Non-American Directions in Japan's Security, Osaka University International Symposium, 16 January 2017, Osaka University.
- ・ Yoneyuki Sugita, "Significance of the Senkaku Issues for Japan's Security Policies," Featured Panel, The Asia-Pacific Conference on Security and International Relations (APSEC) 2016, 8 December 2016, Nakanoshima Center, Osaka University.

〈研究助成〉

- ・ 2018年2月26日 2018年度国際共同研究促進プログラム（タイプB）採択「医療保険制度が診療に与える影響（腫瘍学を中心として）：日本とインドの比較研究」～2025年3月31日まで（毎年上限500千円）
- ・ 2017年3月03日 2017年度国際共同研究促進プログラム（タイプB）採択「アジア太平洋地域の平和と安定：包括的アプローチを目指して」～2024年3月31日まで（毎年上限500千円）
- ・ 2017年2月1日 「ドッジラインの再検討：戦後日本経済の礎」（全国銀行学術研究振興財団研究助成金）～2018年3月31日（600,000円）
- ・ 2016年12月13日 READYFOR受託研究「1947年から1961年までの戦後文献資料に関する研究」
～2018年9月30日（直接経費674,472円、関節経費202,342円、総額876,814円）

[その他の活動]

〈管理運営〉全学入試委員会委員、全学入試委員会広報小委員会委員、外国語学部入試委員会委員長、言語社会専攻入試委員会委員、言語社会専攻英語部会代表、言語社会専攻超域プログラム委員

〈学会活動〉政治社会学会理事、International Advisory Board member of *Faravid* (the yearbook of the Historical Association of Northern Finland), H-US-Japan Editor, H-Diplo Advisory Board member

〈社会貢献活動〉

- ・2017年09月27日 大阪府立天王寺高校PTA大阪大学見学会受入れ教員（豊中キャンパス）
- ・2018年02月13日 大阪府進学特色指導校課題研究発表会質問者

畑田 美緒 (HATADA Mio) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 イギリス言語文化表象論、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究
 〈学部教育担当科目〉 イギリス文学・文化概論、イギリス文学・文化演習、イギリス文学・文化講義、イギリス文学・文化特別演習、

[研究活動]

〈研究テーマ〉 英文学、19世紀のイギリス小説
 〈所属学会〉 日本英文学会、日本英文学会関西支部、ディケンズフェローシップ日本支部

[その他の活動]

〈管理運営〉 言社専攻英語部会長・紀要編集委員会委員長

中村 未樹 (NAKAMURA Miki) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究、広域言語文化論
 〈共通教育担当科目〉 総合英語
 〈学部教育担当科目〉 英語2、イギリス文化講義、イギリス文化演習、イギリス文化特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 イギリス演劇
 〈所属学会〉 日本シェイクスピア協会、日本英文学会、日本英文学会関西支部、名古屋大学英文学会、関西シェイクスピア研究会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「エリザベス朝演劇におけるパッションと感情のコミュニティの形成」 『言語文化研究』 44, 89-106, 2018年03月

〈翻訳・翻訳書〉

- ・トマス・キッド『スペインの悲劇』 翻訳 (2) 『英米研究』 41, 47-91, 2017年03月
- ・バーナビー・リッチ『アポロニアスとシラ』 翻訳 『英米研究』 42, 123-144, 2018年03月

〈書評・論評・紹介〉

- ・(Performance review) Shakespeare: The Sky Filled With Eternal Words by the Takarazuka Revue, Miki Nakamura, Shakespeare Studies 54, 47-49, 2017年03月

- (Book review) Andrew Gurr and Farah Karim-Cooper, eds, *Moving Shakespeare Indoors: Performance and Repertoire in the Jacobean Playhouse*, *Shakespeare Studies* 55, 28-30, 2018年03月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- 少年俳優と異性装—身体、セクシャリティ、パッション, 中村未樹, 関西シェイクスピア研究会4月例会, 2017年04月
- セミナー『十二夜』を読む, イントロダクション 中村未樹, 第56回シェイクスピア学会, 2017年10月

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本英文学会関西支部編集委員、日本英文学会関西支部会計監査委員

〈管理運営〉 国際交流委員会委員、文系海外研修委員

HOFMEYR Michael, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Modernist Poetry: T. S. Eliot, Modernist Poetry: Ezra Pound

<General Education classes> General Linguistics 1 to 4, Introduction to Political Philosophy 1 and 2

<Foreign language classes> Discussion and Debate 1 and 2

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Critical Thinking, Linguistics, Political Philosophy

<Academic society memberships> Japan Association for Language Teaching (JALT)

[Research achievements]

<Papers>

- Hofmeyr, Michael. 2018. 'Literary Debates: Introducing a Literature-based Approach to Teaching Critical Argumentative Skills in a Tertiary-level EFL Context' in *Frontier of Foreign Language Education*, pp. 293-300.
- Saunders, J. Matt and Hofmeyr, Michael. 2016. 'Adapting and Implementing a Level-specific Extensive Listening (EL) Course Component' in *Sojo University Teaching and Listening Forum: Focus on Listening*, pp. 33-46.

<Book reviews>

- Hofmeyr, Michael. 2017. 'Review of Adam Komisarof and Zhu Hua (eds, 2016) *Crossing Boundaries and Weaving Intercultural Work, Life, and Scholarship in Globalizing Universities* (Routledge)' in *Journal of Intercultural Communication* (20), pp. 216-217.

<Oral Presentations >

- 10 December 2017, *Literature as a Catalyst for Critical Thinking in the EFL Classroom*, English Teachers in Japan (ETJ) Expo, Sendai (co-organised by JALT Critical Thinking SIG)

[Other activities]

<Admin activities> Entrance examination marking, judge at English presentation contests for Osaka University graduate schools of medicine and engineering, judge at English presentation contests for foreign language majors at Osaka University

self-assessment and materials recommendations

<Academic society memberships> Japan Association for Language Teaching (JALT), Japan Association of College English Teachers (JACET)

【ヨーロッパ・アメリカⅡ講座】

〔フランス語〕

川北 (安生) 恭子 (KAWAKITA-ANJO Yasuko) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語構造論VIII、ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説

〈共通教育担当科目〉初級フランス語II

〈学部教育担当科目〉フランス語3、フランス語15、フランス語学演習、フランス語教科教育法、フランス文化演習IV

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉フランス語連結詞

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会、日本フランス語学会、大阪大学言語社会学会、大阪大学フランス文学会、大阪市立大学フランス文学会

〔研究業績〕

〈論文〉

・「En tout cas について—先行談話の不確かさとその処理の仕方をめぐって—」『リュテス』第43号、pp.3-22.

〔その他の活動〕

〈管理運営〉知的財産センター兼任教員、国際交流委員会委員、フランス語部会主任

〈学会活動〉日本フランス語フランス文学会語学教育委員

高階 早苗 (TAKASHINA Sanae) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語文化表象論、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究

〈学部教育担当科目〉フランス語、フランス研究入門、フランス文学演習

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 マラルメ作品における時空間の問題

〈所属学会〉 日本フランス語フランス文学会

[その他の活動]

〈管理運営〉 言語社会専攻安全衛生委員会委員長、外国語学部安全衛生委員会委員

岡田 友和 (OKADA Tomokazu) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ言語社会動態論IV、ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究

〈学部教育担当科目〉 フランス語 2、フランス語 14、フランス研究入門、フランス文化演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 フランス近現代史、フランス植民地帝国史

〈所属学会〉 日仏歴史学会、日本西洋史学会、史学会、政治経済学・経済史学会

[その他の活動]

〈管理運営〉 人権問題委員会委員、協定校コンタクト・パーソン（リール政治学院）

POLET Jean-Noël, Specially Appointed Associate Professor

<http://www.jeannoel@lang.osaka-u.ac.jp>

[Teaching activities]

<Foreign language classes> Courses on writing in French (A2 and B1 levels), course on business French, course on French society, course on French communication for beginners, course on French communication for the non-specialist

[Academic activities]

<Research Fields and interests> French social history, history of the port of Marseilles

[Research achievements]

<Books> Le Français à la carte, Asahi press; Quai numéro un pour le Français, Hakusuisha

<Papers> Découvrir le passé composé: la journée d'Isabelle, Frontier of foreign language education, Osaka University

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

<Research aids (Competitive Research Funds)>

[Other activities]

<Academic society activities> Examiner Delf-Dalf

[イタリア語]

菊池 正和 (KIKUCHI Masakazu) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語文化表象論

〈共通教育担当科目〉欧米の文化と社会を知る（国際教養科目）

〈学部教育担当科目〉イタリア語 2、イタリア語 12、イタリア言語文化概説I (a, b)、イタリア文化講義III (a, b)、イタリア文化特別演習I (a, b)

[研究活動]

〈研究テーマ〉未来派演劇における劇作法と舞台空間の研究

〈所属学会〉イタリア学会、地中海学会、関西イタリア学研究会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「リッチャルディの『色彩の演劇』と未来派演劇におけるその影響について」、『言語文化研究』第43号（大阪大学大学院言語文化研究科）、2017年3月
- ・「構造から分析するピランデッロの『劇中劇三部作』」、『天野恵教授退官記念論文集』（京都大学大学院文学研究科）、2018年3月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「ピランデッロ生誕150年記念講演会 『劇中劇三部作』の驚きと魅力」（2017年11月14日、於：イタリア文化会館・東京）
- ・「ピランデッロ『劇中劇三部作』の構造について」（関西イタリア学研究会例会、2017年12月10日、於：京都外国語大学）

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金基盤研究(C)「未来派演劇における劇作法と舞台空間の研究」採択番号 T17K026170（平成29年度～31年度）研究代表者

[その他の活動]

〈管理運営〉外国語学部イタリア語学科目代表、入試委員会委員（学部・大学院）設備・施設マネジメント委員会委員、なんでも相談室室員

〈学会活動〉イタリア学会評議員、編集委員

〈社会貢献活動〉公益財団法人日本イタリア会館理事、京都市立高倉小学校学校運営協議会評価部会、京都市立京都御池中学校学校運営協議会評価部会、京都市日影学区交通対策協議会会長

ベルテッリ ジュリオ アントニオ (BERTELLI Giulio Antonio) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会動態論 VII (a,b)

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習(イタリア語)（前期のみ）

〈学部教育担当科目〉イタリア言語文化概説 II (a,b)、イタリア文化特別演習 (a,b)、イタリア文化講義 II(a,b)、イタリア語 1（文法・通年）イタリア語 4（LL・通年）

[研究活動]

〈研究テーマ〉幕末・明治期における日伊交流史（外交・貿易史）

〈所属学会〉イタリア学会、イタリア近現代史研究会、明治維新史学会、AISTUGIA（伊日本研究会）

カルディ・ルチャーナ (CARDI Luciana) 特任講師

[教育活動]

〈学部教育担当科目〉イタリア語 1 3、イタリア語 I、イタリア文化講義、イタリア語 V、イタリア語初級、イタリア語特別演習、イタリア語 1 1

〈研究テーマ〉20世紀のアメリカ文学における日本の民話の受容と意義

〈所属学会〉BCLA (British Comparative Literature Association) 英国比較文学研究協会、Aistugia (Italian Association of Japanese Studies) イタリア日本研究協会、EAJS (European Association of Japanese Studies) ヨーロッパ日本研究協会

[スペイン語]

大内 一 (OOUCHI Hajime) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究 A・B、ヨーロッパ言語社会動態論 V A・B

〈外国語学部担当科目〉スペイン歴史・文化概論 a、スペイン語 14(B)、スペイン歴史・文化講義 a・b、スペイン歴史・文化演習 I a・b、スペイン歴史・文化特別演習 a・b

[研究活動]

〈研究テーマ〉中世カスティーリャ王国の王権論、中世カスティーリャ王国の都市法研究、ブルゴス市史、カスティーリャ国王アルフォンソ 10 世研究、カトリック両王研究、

〈所属学会〉日本西洋史学会、日本イスパニア学会、西洋中世学会、スペイン史学会、大阪大学言語社会学会、ACADEMIA BURGENSE DE HISTORIA Y BELLAS ARTES

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉WORKSHOP (Learn Spanish in Castilla y León) in Valladolid (23/11/2017)

[その他の活動]

〈管理運営〉外国語学部長、大阪大学教育研究評議員、言語文化研究科筆頭副研究科長、言語社会専攻長、大阪大学医学部国際医療センター運営委員、広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター副センター長、大阪大学施設マネジメント委員、大阪大学キャンパスライフ健康支援センター運営委員、ほか

〈学会活動〉大阪大学言語社会学会理事、Intus-Legere Historia (Universidad Adolfo Ibañez) 海外編集委員、La ACADEMIA BURGENSE DE HISTORIA Y BELLAS ARTES アカデミア海

外特別会員、

〈社会貢献活動〉生産技術振興協会発行『生産と技術』編集委員

長谷川 信弥 (HASEGAWA Shinya) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉広域言語文化論 V、ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究 A

〈学部教育担当科目〉教科教育法(スペイン語)、スペイン語 1、スペイン語学講義 I、スペイン語特別演習 I、スペイン語演習 I、カタロニア語

[研究活動]

〈研究テーマ〉スペイン語学、カタロニア語学、ロマンス語学

〈所属学会〉日本イスパニヤ学会、日本ロマンス語学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉スペイン語[改訂版](大阪大学外国語学部 教科書シリーズ 7) , 大阪大学出版会, 2017 年 03 月

[その他の活動]

〈管理運営〉外国語学部副学部長(平成 29 年 9 月まで)

〈学会活動〉日本イスパニヤ学会監査

〈社会貢献活動〉大阪大学社学連携事業 みのおエフエム「まちのラジオ」出演, 2017 年 12 月

岡本 淳子 (OKAMOTO Junko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語文化表象論

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習(スペイン語)

〈学部教育担当科目〉スペイン語 3、スペイン文学概論、スペイン文学講義、スペイン文学演習、スペイン文学特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉スペイン演劇

〈所属学会〉大阪大学言語社会学会、日本イスパニヤ学会、日本演劇学会、日本アメリカ演劇学会、International Federation for Theatre Research

[研究業績]

〈論文〉

- ・ "Estrategia de Antonio Buero Vallejo para la Historia Oral: Desmantelamiento del mecanismo ideológico del Estado en la Doble historia del doctor Valmy", *Don Galán – Revista de Investigación Teatral* Número 6, (Centro de Documentación Teatral, 2016 年 12 月)

〈翻訳・翻訳書〉

- ・(資料翻訳)「アントニオ・ブエロ・バリェホの検閲関係書類(2)」Estudios Hispánicos 41号(大阪大学外国語学部スペイン語部会、2017年3月)
- ・(資料翻訳)「アントニオ・ブエロ・バリェホの検閲関係書類(3)」Estudios Hispánicos 42号(大阪大学外国語学部スペイン語部会、2018年3月)
- 〈研究助成〉科学研究費基盤研究(C) 課題番号 15K02173 「独裁政権下のスペイン演劇—検閲と戦った二人の劇作家の明暗—」(平成27~30年)
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉学生支援委員会副委員長、人権問題相談員
- 〈学会活動〉日本アメリカ演劇学会事務局幹事
- 〈社会貢献活動〉モレロス大学(メキシコ)の学生と阪大生との交流会(2017年9月13日)
- 大阪大学会館での歌劇『ベル・カント』映画上映会(2017年10月19日)

松本 健二 (MATSUMOTO Kenji) 准教授

[教育活動]

- 〈研究科担当科目〉アメリカ言語文化表象研究 etc.
- 〈共通教育担当科目〉初中級スペイン語
- 〈学部教育担当科目〉スペイン語中級講読 etc.

[研究活動]

- 〈研究テーマ〉ラテンアメリカ現代文学(スペイン語圏)
- 〈所属学会〉日本イスパニヤ学会、日本ラテンアメリカ学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「暗室のナルシス—エンリケ・リンの初期詩学に関する考察」『Estudios Hispánicos』41号、77-104
- ・「反詩の第二段階—ニカノール・パラ『アルテファクト』をめぐって」『Estudios Hispánicos』41号、45-75
- ・「乱反射する苦痛と希望—ラウル・スリータ『楽園前』に関する考察」『Estudios Hispánicos』42号、51-84

〈翻訳・翻訳書〉

- ・ロベルト・ボラーニョ『ムッシュー・パン』白水社

〈研究助成〉

- ・科学研究費基盤C(26370386)「チリにおける反詩の系譜—：ニカノール・パラとエンリケ・リンの詩に関する総合的研究」(2014年4月~2017年3月)
- ・科学研究費基盤C(17K02618)「チリのポスト軍政期文学の挑戦：スリータとエルティッツの文学に関する総合的研究」(2017年4月~2020年3月)

〈調査活動〉

- ・上記科研 C (17K02618) に関する資料収集：チリ国サンティアゴ (2018 年 3 月 10 日～19 日)

[その他の活動]

〈学会活動〉日本イスパニヤ学会理事 (2014 年 4 月～2018 年 3 月)

中本 香 (NAKAMOTO Kaori) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会構造論 IV、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説 (リレー講義の 1 回分を担当)

〈学部教育担当科目〉スペイン歴史文化概論 b, スペイン語 3, スペイン語 4, スペイン語 1 3, スペイン歴史文化演習 IIb, スペイン歴史文化特殊研究 b, スペイン歴史文化特別演習 b

[研究活動]

〈研究テーマ〉

- ・近世・近代スペインにおける国制史研究

〈所属学会〉日本イスパニヤ学会, 日本西洋史学会, スペイン史学会

〈研究助成〉

- ・基盤研究 B「歴史的ヨーロッパにおける複合政体のダイナミズムに関する国際比較研究」、平成 25-28 年度科学研究費補助金 (研究代表者：古谷大輔)、研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉なんでも相談室副室長, 施設マネジメント委員会委員.

Margarita Nakagawa, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Special Seminar in Spanish

<Foreign language classes> Spanish conversation classes

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Spanish linguistics and teaching methods

<Academic society memberships> Círculo de Lingüística Hispánica de Kansai; Asociación Japonesa de Hispanistas; Taller de Didáctica de Español de Kansai (TADESKA)

[ポルトガル語]

東 明彦 (AZUMA Akihiko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アメリカ言語社会動態論、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説 (リレー講義)

〈共通教育担当科目〉 大阪大学の歴史（リレー講義）、知性への誘い（リレー講義）
〈学部教育担当科目〉 ポルトガル語圏文化演習、ポルトガル語専攻語演習、ポルトガル語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ブラジルの奴隷制

〈所属学会〉 日本ポルトガル・ブラジル学会（AJELB）、日本ラテンアメリカ学会、日本イ
スパニヤ学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「ヘンリー・コスター『ブラジル旅行記』（1816年）について（4）－奴隷貿易の愚かさ－」
『ブラジル研究』14号、2018年3月、pp. 27-40。

[その他の活動]

〈管理運営〉 総長参与（2017年8月まで）、外国語学部長（2017年9月まで）、学生生活委
員会委員（2017年10月から）、学生支援委員会委員（2017年10月から）

〈社会貢献活動〉 社学連携事業「ラボ・カフェ」講師（2018年1月18日、於：アートエリ
ア B1）

平田 恵津子 (HIRATA Etsuko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アメリカ言語文化表象論、世界文学・文化論

〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習（ポルトガル語）II

〈学部教育担当科目〉 ポルトガル語 3(A)(B)、ポルトガル語圏文学概論、ポルトガル語圏文
学演習I、ポルトガル語圏文学演習 III、ポルトガル語圏文学演習 IV

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ブラジルモデルニズモ文学、日系ブラジル文学

〈所属学会〉 日本ラテンアメリカ学会、日本ポルトガル・ブラジル学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「ブラジル文学における日本移民の表象」、『ブラジル研究』第13号、pp. 33-41、2017年3
月31日

〈翻訳〉

- ・「ムリロ・ルビアン「行列」」、『ブラジル研究』第14号、pp. 59-74、2018年3月31日

〈口頭発表〉

- ・「日系ブラジル文学：ラウラ・ホンダ・ハセガワの *Sonhos Bloqueados* を読む」、日本ポル
トガル・ブラジル学会関西支部会、2018年3月24日

〈研究助成〉

- ・科学研究費基盤C（平成27-29年）「日系ブラジル人の記憶と創造に関する研究」代表者

[その他の活動]

〈管理運営〉ポルトガル語部会主任、ポルトガル語専攻学科目代表、なんでも相談室相談員、
海外交流協定校コンタクトパーソン（サンパウロ大学）

〈学会活動〉日本ポルトガル・ブラジル学会理事

坂東 照啓 (BANDO Teruhiro) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語構造論 IX A・B

〈共通教育担当科目〉ポルトガル語初級 I・II

〈学部教育担当科目〉ポルトガル語V a・b, ポルトガル語圏語学概論 a・b, ポルトガル語圏
言語演習II a・b, ポルトガル語圏言語特別演習 a・b

鳥居 玲奈 (TORII Rena) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アメリカ言語構造論 IAB

〈学部教育担当科目〉ポルトガル語 2、ポルトガル語 1 3(A)(B)、ポルトガル語圏文化研究
Iab、ポルトガル語圏言語演習 IVab、ポルトガル語圏言語演習 Vab、ポルトガル語言語演
習 IIIab

[研究活動]

〈研究テーマ〉ポルトガル語学

〈所属学会〉日本ポルトガル・ブラジル学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈共編〉

・『カンタニェスの声』、大阪大学言語文化研究科言語社会専攻ポルトガル語部会、2017 年
3 月

〈論文〉

・「ポルトガル語の縮小辞-zinho の生産性」『ブラジル研究』第 13 号、2017 年 3 月、pp.23-
31

・「現代ブラジルポルトガル語における主語の明示に関する一考察」『ブラジル研究』第 14
号、2018 年 3 月、pp.41-50

・「ポルトガル語の縮小辞-inho と-zinho - 教育的観点からの考察」『Anais』XLVII、2018 年
3 月、pp.1-12

・「ブラジルポルトガル語における名詞句内の数の一致」『ExOriente』、2018 年 3 月

〈書評・論評・紹介〉

・書評 - 「書評: Como os brasileiros falam」『Clear Sky』第 15 号、2017 年 3 月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ 口頭発表 – 「現代ブラジルポルトガル語における主語の明示について – ヨーロッパポルトガル語との比較から」 日本ポルトガルブラジル学会関西部会、平成 30 年 3 月 24 日
(於：京都外国語大学)